ForceMaster 2000 MK

取 扱 説 明 書

このたびは、シマノ ForceMaster 2000 MK をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

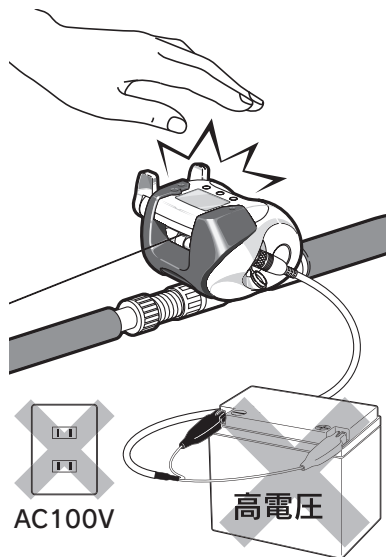
ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警 告

高温注意

●バッテリー、船電源の所定電圧（ＤＣ１２～１４.８ボルト）以外を使用しないでください。
所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。

●家庭用交流電源につながないでください。
回路が破損し発火発煙の恐れがあります。

●電源コネクターやワニロクリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。

⚠ 警 告

警告

●電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。
そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を一つ上げてご使用ください。

警告

●バッテリーマーク（B または ▭）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用下さい。

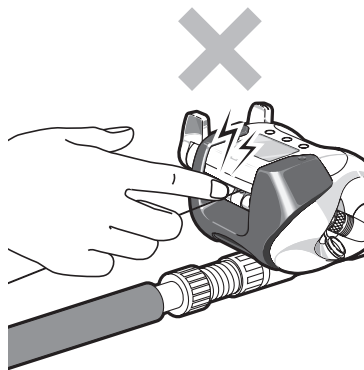
警告

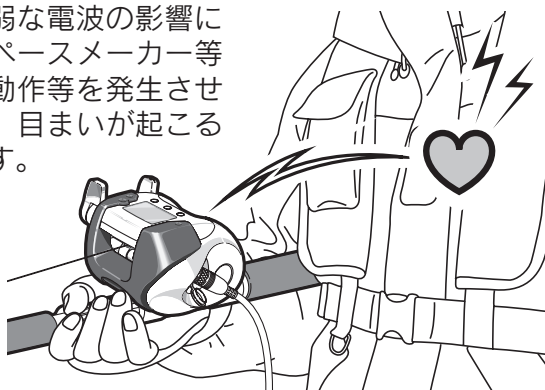
●船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。
デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（B または ▭）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

⚠ 警 告

指をはさまれないよう注意

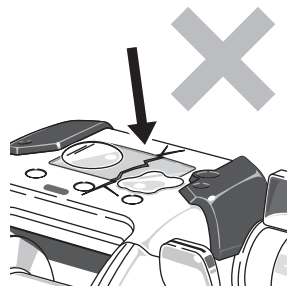
●糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。

●ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。

●電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させご使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。

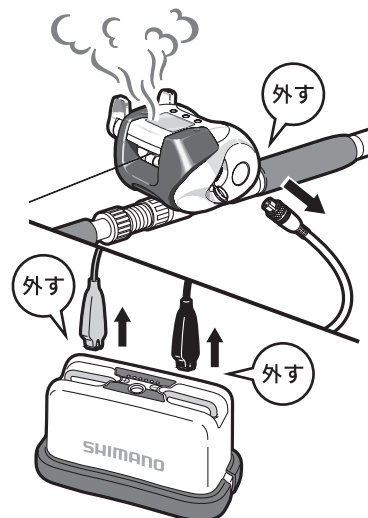
警告

⚠ 警 告

警告

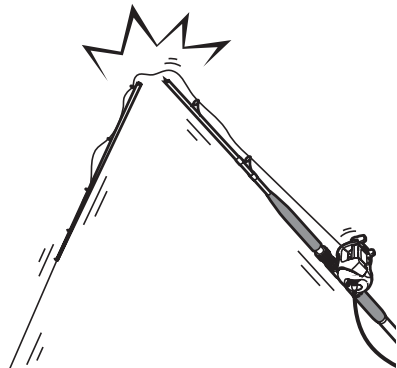
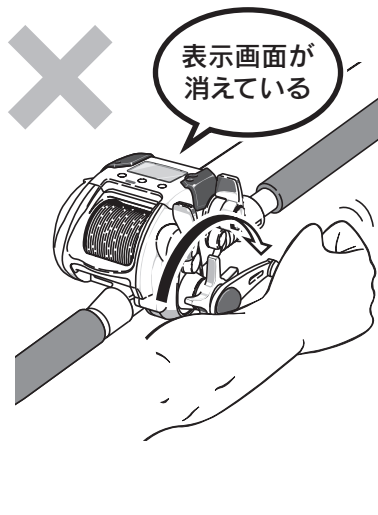
●カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。

●電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。

警告

●電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。

●巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニロクリップを外してください。

⚠ 注 意

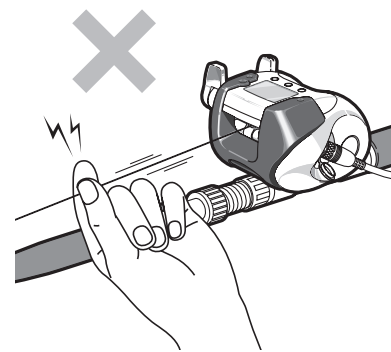
注意

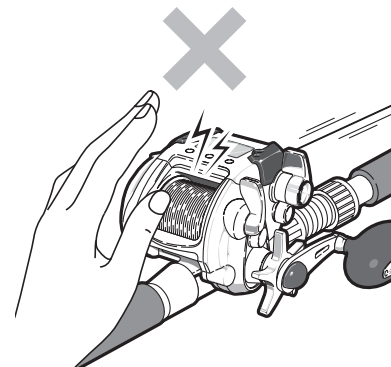
●電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。
場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。

⚠ 注 意

注意

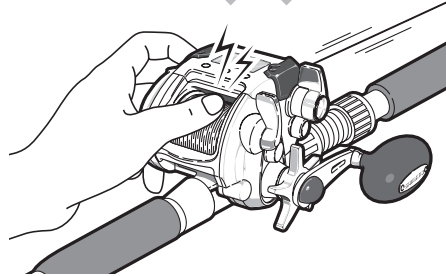
●メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。

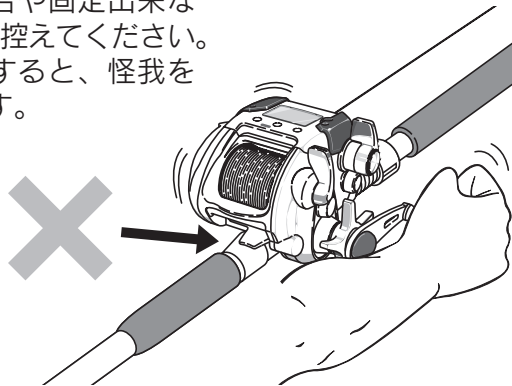
指をはさまれないよう注意

●糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。

回転物注意

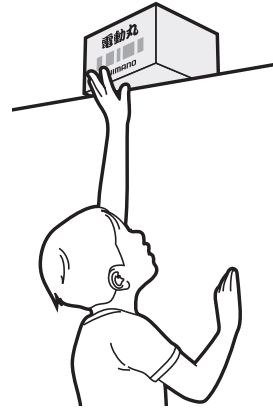
●回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。

⚠ 注 意

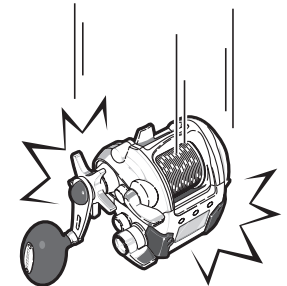
回転物注意

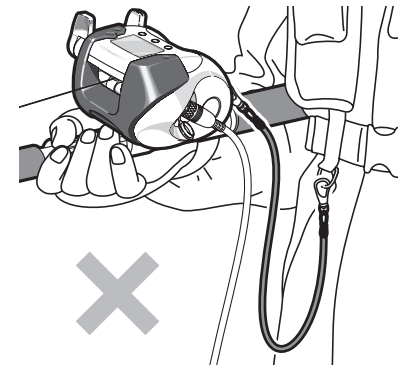
●指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。
指を怪我したり、切断する恐れがあります。

注意

●電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。
ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。
釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。

⚠ 注 意

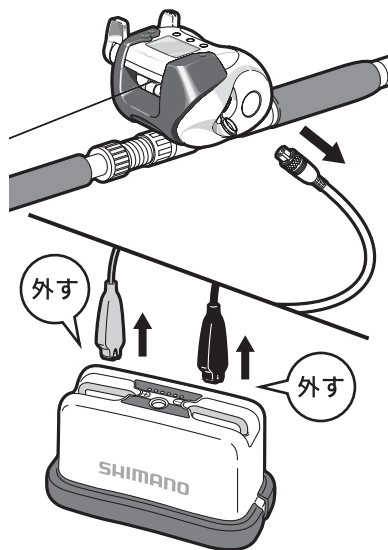
注意

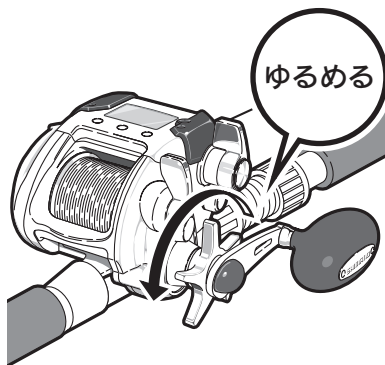
●幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。

注意

●落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。
強い衝撃が加わらないようにしてください。

注意

●ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。
魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。

⚠ 注 意

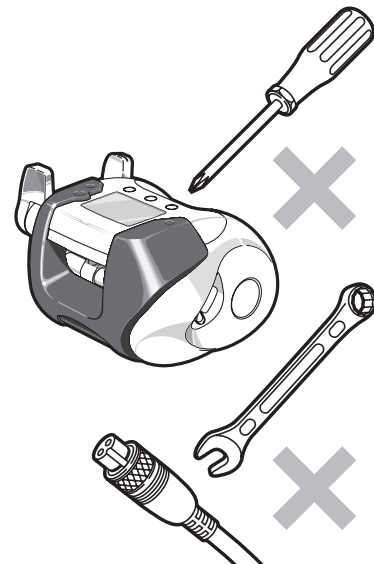
注意

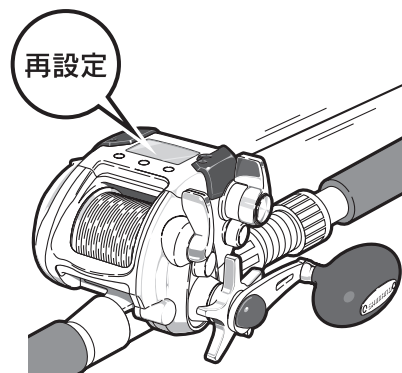
●釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。
急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。

注意

●電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。
故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。

⚠ 注 意

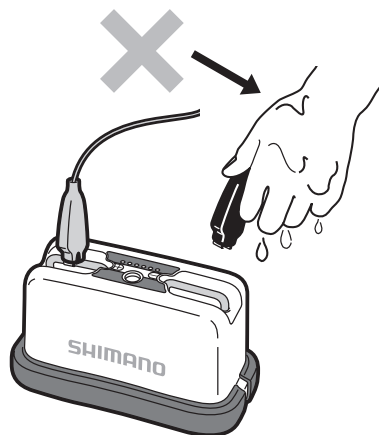
分解禁止

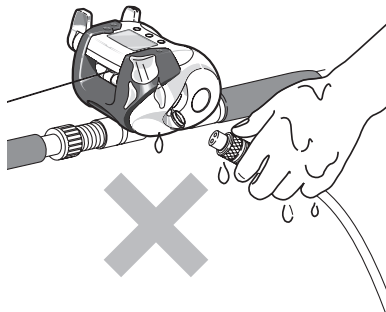
●本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。

●ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。

注意

●船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズレる事があります。停止位置がズレてきた場合は「0セット」して補正してください。
停止位置がズレると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。

注 意

注意

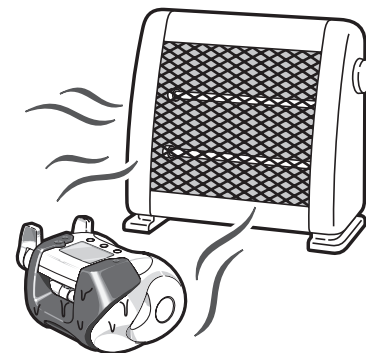
●濡れた手でケーブルのワニロクリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らいないでください。感電する恐れがあります。

注意

●ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。
濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。

注意

●根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

注 意

注意

●メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。

モーターの誤作動についてのご注意

●本電動リール表示部は１０ｍの耐水圧性能により防水が確保されています。
しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。

●本電動リールの使用電源保証範囲はＤＣ１２～１４.８Ｖまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。

特長

糸落がさらにスムーズに…

e-センタリングシステム。

クラッチをOFFにし、シカケ落下中にレベルワインド位置がオートでセンターに移動し、糸落がさらにスムーズになります。

ドラグが滑ると爽快に響く…

e-エキサイティングドラグサウンド。

P15参照

エキサイティングドラグサウンドが電子音になりました。アングラーを白熱させる音が鳴り響きます。

糸ふけを取る時やさそいをする時に…

チョイ巻。

P12・14参照

ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。

コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…

棚タイマー。

P12参照

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

糸落のスピードを安定させ、釣果UPに…

糸落スピードの目安を表示。

P12参照

魚の大きさや匹数の目安などに…

電動巻上負荷表示。

P13・15参照

穂先への仕掛巻込防止機能・アタリをお知らせ…

フカセモード。

P61～62参照

フカセモード時は「仕掛巻込防止機能」、「アタリ検知アラーム」の2つの機能が有効になります。

錆、塩噛みに強いボールベアリング…

シールドタイプS A-RB内蔵。

P43参照

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させた S A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現！ A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させています。

2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。

P50～51参照

巻き上げパワーが一定の「楽楽モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパーII

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。

このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現。

さらに磨きのかかった…
ハイスピード＆ハイパワーを装備。

軽いオモリでも底取り簡単…
スーパーフリースプール。 P17・43参照
クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。
ご注意：クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…
0（ゼロ）セット。 P40～41参照
シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。

竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…
船べり自動停止。 P44～45参照
船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。

シカケ回収にかかる時間を表示…
仕掛回収時間。 P60参照
電動巻き上げ時に、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

高切れをワンタッチで修正する…
高切れ補正。 P42参照
高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。

レバー操作で巻き上げパワーまたはスピードをらくらく調整…
テクニカルレバー。 P16・50～51参照

プログラマ不要の新SLS方式…
SLS III（シマノ・ラインプログラム・システム3）搭載。
簡単・便利になりました。
より正確な棚取りが可能です。 P20～35参照

カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…
糸巻学習補正。 P63～65参照

メモリーした水深をメモ欄に表示…
棚メモ。 P46参照
棚または底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置を0とした水深をメモ欄に表示します。

次ページにつづく

メモ水深の表示方法を選択できる…

「上からモード」「底からモード」切り替え。

P47～49参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えできます。
上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。

名人のさそい・お好みのさそい動作をリールが再現…

さそい動作再現。

P52～59参照

電動リールにさそい動作を再現させることができます。
さそいパターン「3段シャクリ」「2段シャクリ」「ウィリー」の選択、または「学習」でオリジナルのさそいパターンを入力・選択することもできます。

探見丸システムを組み合わせれば、
さらに便利に！

魚探と連動!! 探見丸システム対応

船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P11・66～67参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

釣技の再現がさらに便利に、詳細に設定可能…

テクニックマスター。

P66参照

釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター（TM）が、探見丸で便利に操作できます。あらかじめインプットされた代表的なさそいパターンの使用や、さそい幅の指定などが可能です。
また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

本文の説明中に
次のようなマークが
出てきた場合は…

指し示された
ボタンを**3秒未満**
チョイ押しして
ください。

ワンタッチ

指し示された
ボタンを**3秒以上**
長押しして
ください。

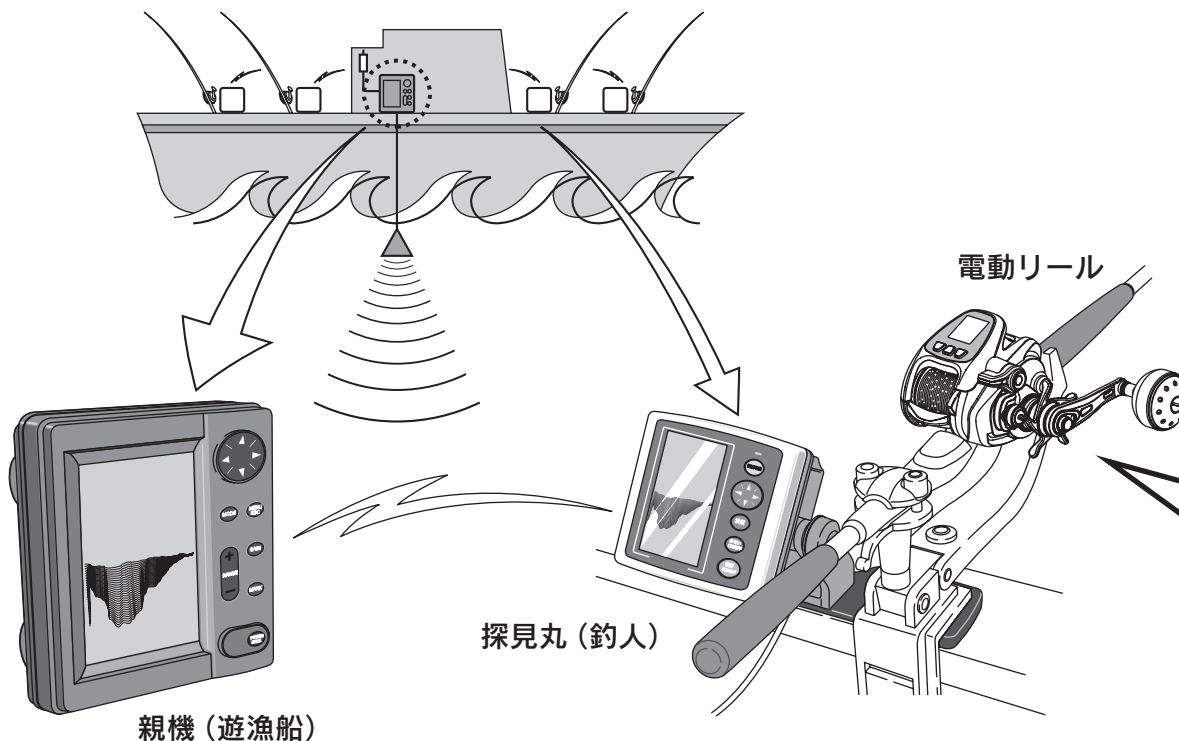
3秒以上

ご注意：
本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは、例として表示している場合があります。
全く同じ表示になるわけではありません。

探見丸システムについて （探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 66 ～ 67 ページへ！）

探見丸システム　親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。

さらに探見丸システム対応電動リールと組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. **電動リールの操作が探見丸で可能に**
   ［さそい、棚停止、オートシャクリetc.］
2. **電動リールからのデータを探見丸で表示**
   ［リール水深、棚タイマーetc.］
3. **双方のデータを組み合わせてより便利な情報を表示**
   ［シカケ軌跡、さそい幅etc.］

※この電動リールでは棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動リールの機種によって使える機能は異なります。

この電動リールは探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた場合の機能については66～67ページをご覧下さい。

デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作

◎テクニカルレバーの設定表示
テクニカルレバーの操作時に
巻き上げパワーまたはスピードを表示します。
※「0~Hi」の31段階

◎棚タイマー
仕掛けが目標の棚に到達してからの
経過時間を表示します。
※0~59秒は1秒単位、
1~99分は1分単位で表示します。
100分経過すると0秒に戻ります。

◎糸落スピード表示
糸落のスピードの目安を表示します。
※表示中は "〔 〕" が点滅します。

◎フカセモード
フカセモード時は "〔 〕" が消えます。

◎棚メモ
上からモード時はメモした水深を、
底からモード時はメモ位置をゼロと表示します。

◎現在の水深
水面からの水深を表示します。
※水深は10cm単位です。100m以上は
下図のように1m単位になります。
99.9 → 100

◎各機能作動時のお知らせ
さそい動作中：
〔さそい〕が表示されます。
楽楽モードへ切り替え時：
「ピッ」のアラームが鳴り**〔楽〕**が3秒間
表示されます。
速度一定モードへ切り替え時：
「ピッ」のアラームが鳴り**〔速〕**が3秒間
表示されます。

◎電圧不足のお知らせ
電圧が不足した場合に ▭ が点滅で表示
されます。（不足時以外の電圧の状態は
メニュー画面で確認できます。）

■チョイ巻／さそいボタン

チョイ巻機能がONの時、ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。
巻き上げのスピードは「0～Hi」まで変えることができます。（初期設定は15になっています。）
※チョイ巻機能をONにしますと、
さそい機能は自動的にOFFになります。
※船べり停止以降は、チョイ巻を無効にしています。

さそい機能がONの時、さそい動作がスタートします。
途中停止、再スタートもこのボタンで行います。
※さそい機能をONにしますと、
チョイ巻機能は自動的にOFFになります。
※船べり停止以降は、さそいを無効にしています。

■0セット／メモボタン

0セットします。
仕掛けを水面に合わせて0セットしてください。
※水深表示が10.1m以上で高切れ補正します。結びなおした仕掛けは水面に合わせ高切れ補正してください。

棚をメモします。
選択しているモードにより、表示される内容は異なります。

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

《電動巻上負荷表示、仕掛回収時間がONの時》

下図のように「**◎現在の水深**」の下段に表示されます。

◎現在の水深

◎仕掛回収時間

仕掛回収時間ON時は
電動巻き上げの際、
シカケ回収にかかる時間
を表示します。

◎電動巻上負荷表示

電動巻上負荷表示ON時は、モーターで
巻き上げ時、ラインテンションの目安を
表示します。負荷の大きさにより、
数字が「0～9」まで変化します。

■メニュー／楽・速ボタン

ワンタッチ

押すごとに速度一定モードと
楽楽モードの切り替えができます。
巻き上げ中の操作も可能です。

モードの切り替え時に〔**楽**〕（楽楽モード）または
〔**速**〕（速度一定モード）をカウンターに３秒間表
示して、作動したモードをお知らせします。

3秒以上

メニュー画面が表示されます。
メニューから各機能の設定を変更できます。

メニュー画面の操作方法は
右図をご覧ください。

《メニュー画面の基本操作》

メニューボタンを3秒以上押すと「ピピッ」のアラームが鳴り、
下記のメニュー画面が表示されます。

◎メニュー画面

カーソルの移動でメニューの
リストがスクロールします。
メニューから設定変更できる
機能の一覧は、次ページを
ご覧ください。

◎カーソル

メニューを反転表示します。
機能の選択に使用します。

各ボタンの割り当てを表示
しています。操作の際の
ガイドにご使用ください。

◎電圧の状態

バッテリーまたは電源の
電圧を下図のように
お知らせします。

：充分な電圧（点灯）

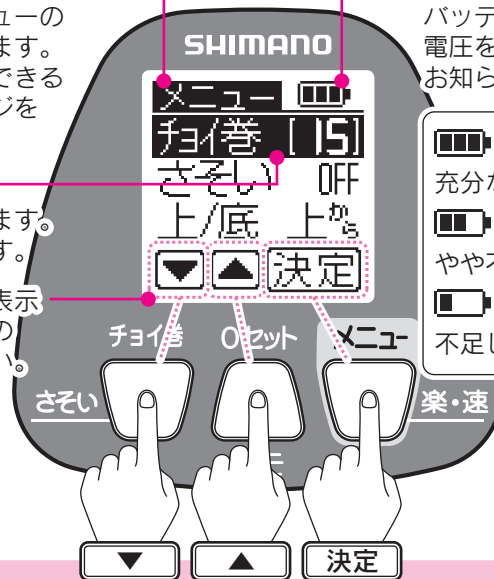
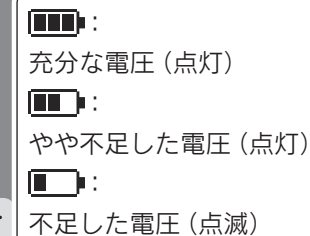
：やや不足した電圧（点灯）

：不足した電圧（点滅）

SHIMANO

メニュー
チョイ巻 [15]
さそい OFF
上/底 上から
▼ ▲ 決定

チョイ巻　0セット　メニュー
さそい　楽・速

▼　▲　決定

各ボタンでカーソルが上下に移動します。
数値の設定の場合は値が1ずつ増減します。

カーソルで選択した機能（また
は設定した数値）**を決定します。**

水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

モーターでの巻き上げ、もしくはハンドルで巻き上げますと、メニュー画面から水深
画面に戻ります。

メニューから設定変更できる機能の一覧は、次ページをご覧ください。

メニューで設定の変更が可能な機能一覧

◎メニュー画面

カーソルの移動でメニューのリストがスクロールします。
機能名の右は現在の設定を表します。
（図の設定は例です。）

※現在の設定に「ー」が表示されている時は、機能を使用することができません。

※本製品はスーパーフリースプールを採用しておりますので、モーターを強制的に回しての「糸送り」機能は搭載しておりません。

各機能の設定後は、メニュー画面に戻ります。
水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

※初期設定から設定を変えられた場合、電源をOFFされましても、設定は記憶されます。

■チョイ巻

機能のON/OFFが可能です。
ONを決定するとチョイ巻スピード[0]～[Hi]の選択ができます。

チョイ巻スピードの設定

ONの決定時に表示されるチョイ巻スピード設定画面（上図右）で操作します。
数値を▼▲ボタンで増減してお好みのスピードに設定し、決定ボタンを押してください。

※チョイ巻機能をONにしますと、さそい機能は自動的にOFFになります。

→12ページの説明もご覧ください。

■さそい（さそい機能）

機能のON/OFFが可能です。
ONを決定するとさそい動作パターンの選択、オリジナル動作の入力・選択ができます。

※さそい機能をONにしますと、チョイ巻機能は自動的にOFFになります。
※探見丸接続時は電動リール側からの設定変更ができなくなります。探見丸側からのみ変更可能です。

→詳しい操作と説明は52 ～ 59ページへ

■上/底（上からモード/底からモード）

上からモードと底からモードを切り替えできます。

→詳しい操作と説明は47 ～ 49ページへ

■ドラグ♪（e-エキサイティングドラグサウンド）

機能のON/OFFが可能です。

ドラグが滑ると爽快に音が鳴ります。
エキサイティングドラグサウンドが電子音になりました。
アングラーを白熱させる音が鳴り響きます。

■負荷表示（電動巻上負荷表示）

表示のON/OFFが可能です。

→13ページの説明もご覧ください。

■フカセ♪（フカセモード）

機能のON/OFFが可能です。
ONを決定するとアタリ検知アラームのスピード[0] ～ [Hi]の選択ができます。

フカセモードをONにされますと、仕掛巻込防止機能とアタリ検知アラームの２つの機能が有効になります。
※糸巻学習「フロロ学習 E2」の終了後は、フカセモードが自動的にON になります。

→詳しい操作と説明は61 ～ 62ページへ

■回収時間（仕掛回収時間）

表示のON/OFFが可能です。

→詳しい操作と説明は60ページへ

■糸巻補正（糸巻学習補正）

カウンターの水深と実際のラインマーカーのずれの補正が可能です。

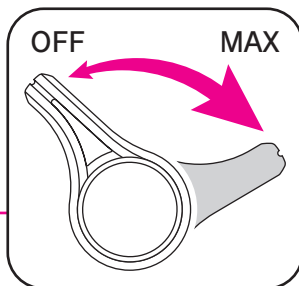
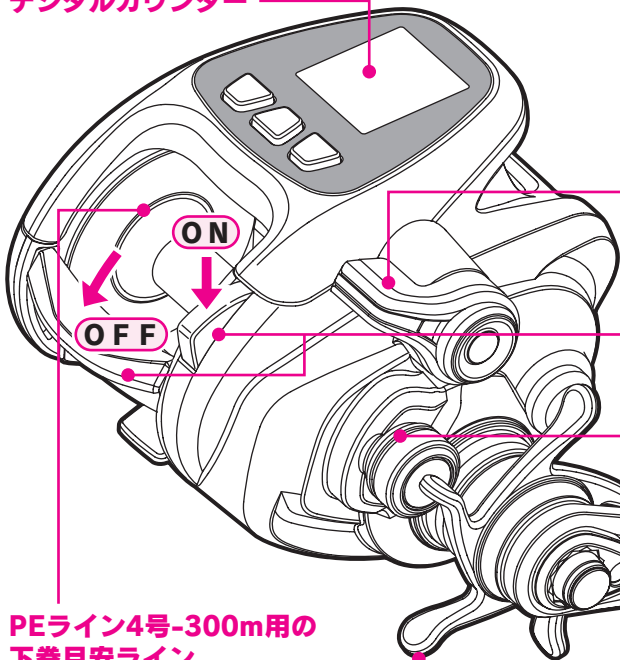
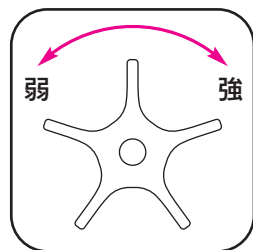
→詳しい操作と説明は63 ～ 65ページへ

■リールデータ

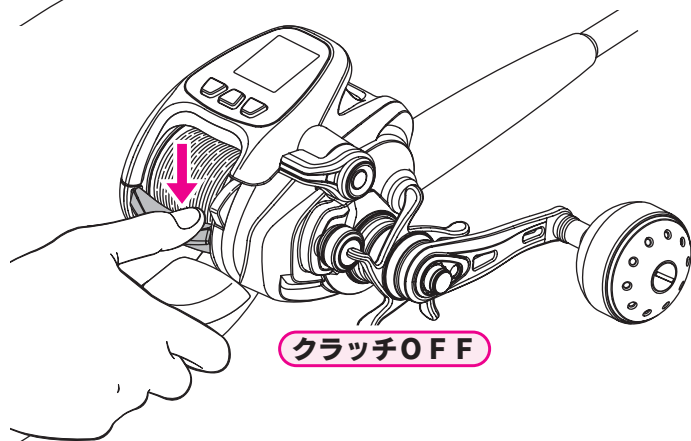
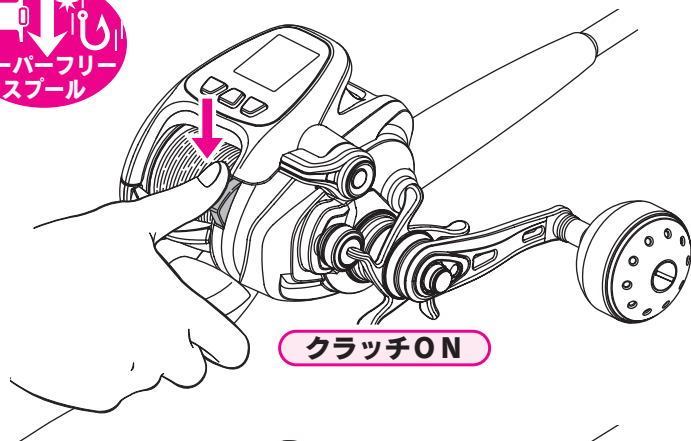
リールデータ（巻上距離・使用時間）の確認ができます。

■水深画面へ

メニュー画面を抜けて、水深画面へ戻ります。

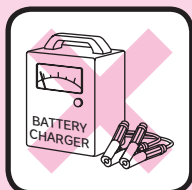
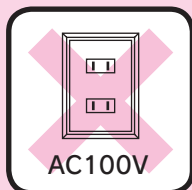
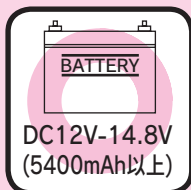
各部の名称

デジタルカウンター
ON
OFF
OFF
MAX
テクニカルレバー
巻き上げパワーまたはスピードを
瞬時に調整することができます。
※船べり停止後等で、いったん停止後の
再始動時には一度OFFに戻してから
始動させます。
カウンター2.0m以下では安全のため
レバーを動かしての巻き上げはできないように
なっております。
テクニカルレバー
サムレスト＆クイックリターンクラッチ
（次ページをご覧下さい。）
メカニカルブレーキノブ
スプールの回転にブレーキをかけて
シカケをおろす時のバックラッシュを防止します。
PEライン4号-300m用の
下巻目安ライン
スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れを
おこさないように糸を送り出す力を調整します。
弱
強
セーフティレベルワインドカバー
（カウンタ部も保護します。）
レベルワインド
※巻上げ時に指をはさまないよう注意してください。
電源コネクター
※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

サムレスト＆クイッククリターンクラッチ

クラッチOFFの時レバーを押すと、クラッチがONになります。
ロッドを持っている手で素早く操作できます。
ハンドル正転または手で戻してもONできます。

ON　：シカケの巻き上げ
OFF：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

電源とケーブルについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流（DC）12Vです。公称電圧が12Vから14.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。

- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから14.8Vであることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。）また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。
- 他社メーカーのバッテリーには、ワニ口が正確に取り付けできない場合がございます。また、他社メーカーのバッテリーを使用されますと、バッテリーが破損する場合があります。

本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。
ご使用になる際は弊社、**電力丸**をご使用になるようお勧めいたします。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。
探見丸接続時は専用ケーブルをご使用ください。
ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、２～３年で交換することをお勧めします。

ご注意：
純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

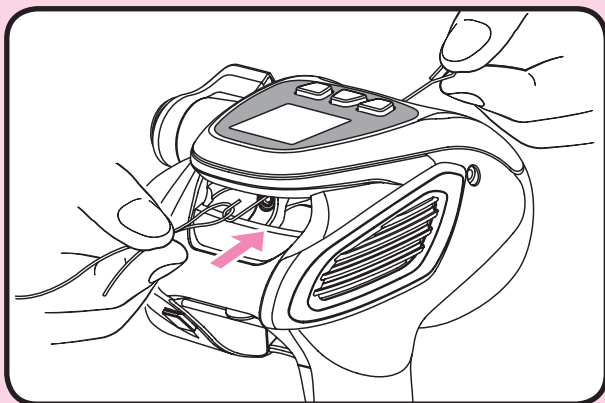
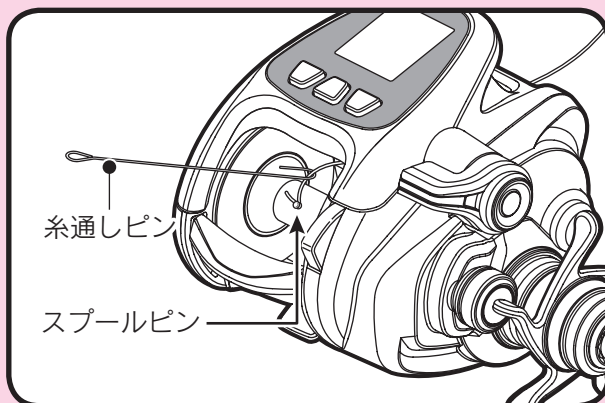
本製品に付属しているケーブルは Type-B です。
※ケーブルタイプの表示のない電動リールおよびケーブルはType-Bになります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。
赤クリップを（+）側に、黒クリップを（−）側につないでください。

2 リールとケーブルを接続してください。
ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。

糸をセットします。

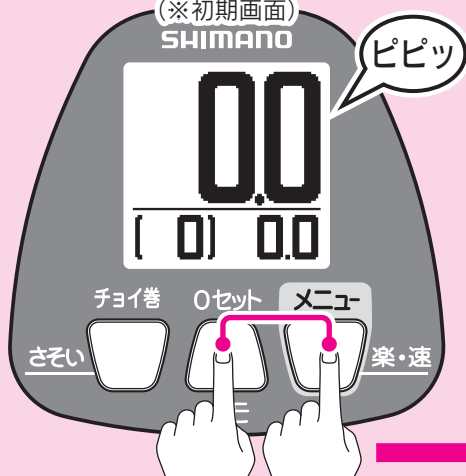
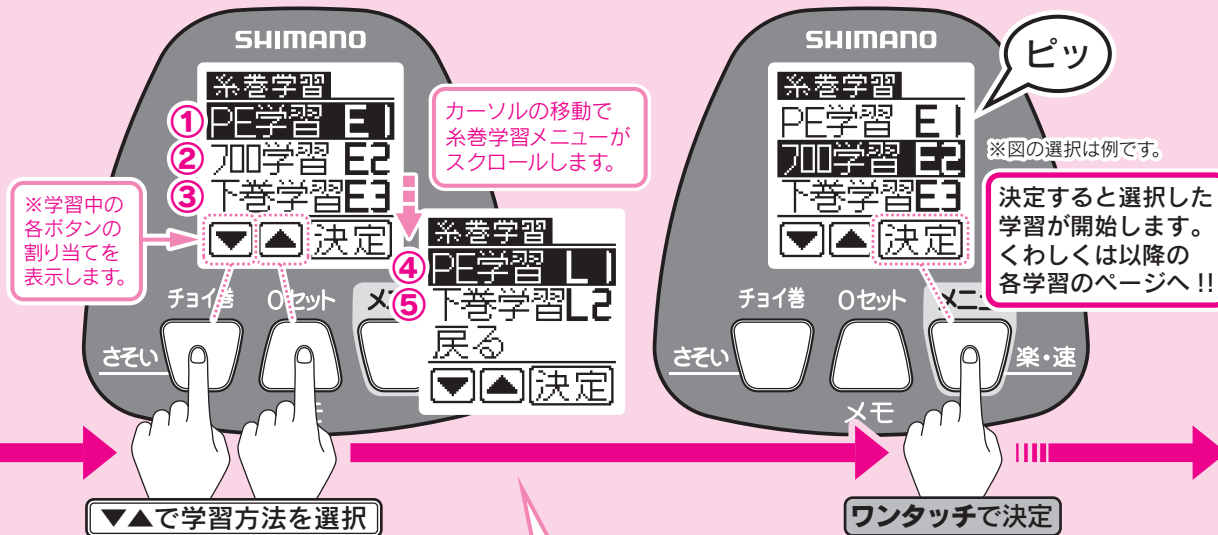
1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。

2 スプールピンに糸を結んでください。

学習方法の選択

まず次ページの操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
※カウント値が 6 m以下で操作してください。
　6.1m 以上の時はいったん 0 セットしてください。

ご注意：
不足した電圧 [battery icon] で学習されると途中で液晶が消える場合があります。
この場合、学習は始めからやり直してください。

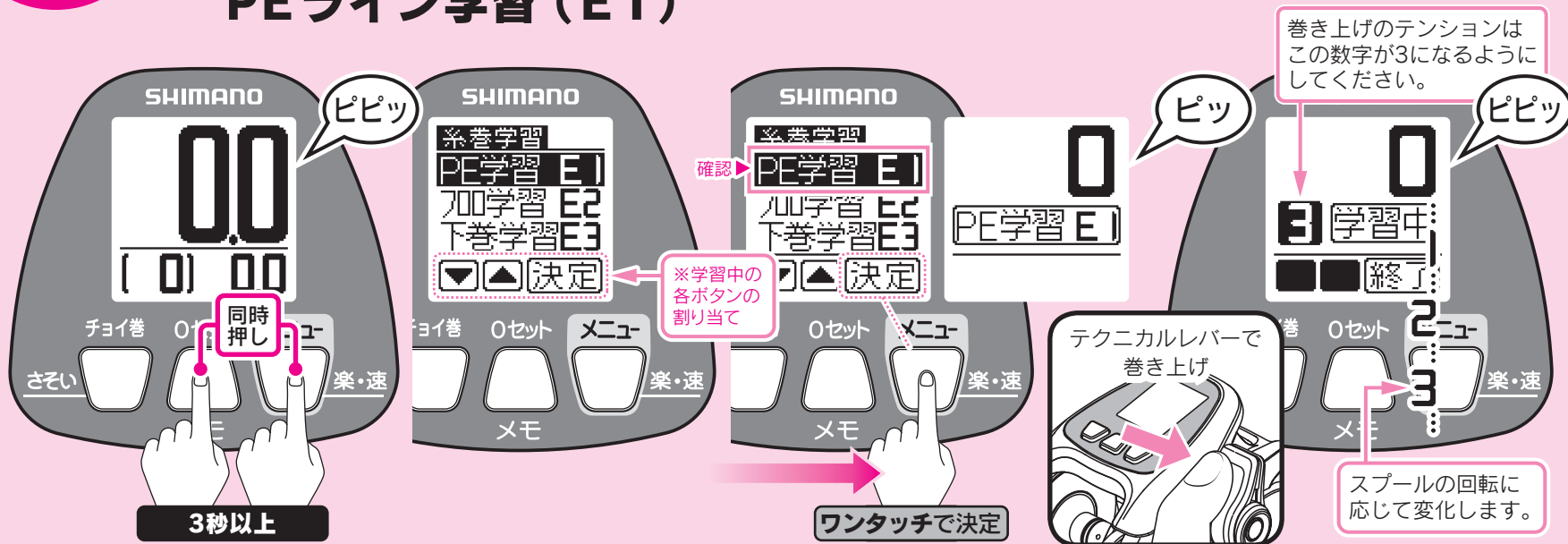
学習モード一覧

簡単・便利な NEW SLS Ⅲ 糸巻学習 **E1～E3**

① **PE学習**	**E1**	… 22～23 ページ
② **フロロ学習**（ナイロン糸も学習できます。）	**E2**	… 24～25 ページ
③ **下巻学習**	**E3**	… 26～29 ページ

従来の SLS Ⅱ 糸巻学習 **L1～L2**

④ **PE学習**	**L1**	… 30～31 ページ
⑤ **下巻学習**	**L2**	… 32～35 ページ

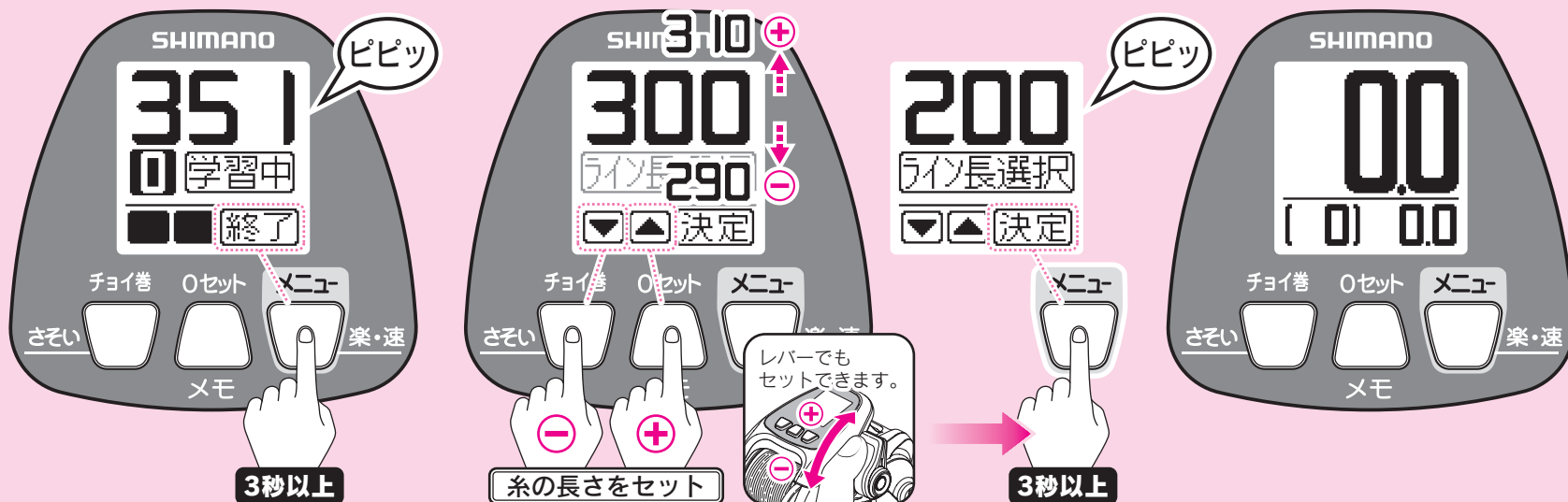
1 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習

PEライン学習（E1）

ピピッ
同時押し
3秒以上
確認
※学習中の各ボタンの割り当て
ワンタッチで決定
ピッ
テクニカルレバーで巻き上げ
巻き上げのテンションはこの数字が3になるようにしてください。
ピピッ
スプールの回転に応じて変化します。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（40～41ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）
0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
「PE学習 E1」が選択されていることを確認し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
（学習方法の選択について、詳しくは20～21ページをご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**
この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。**テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。**

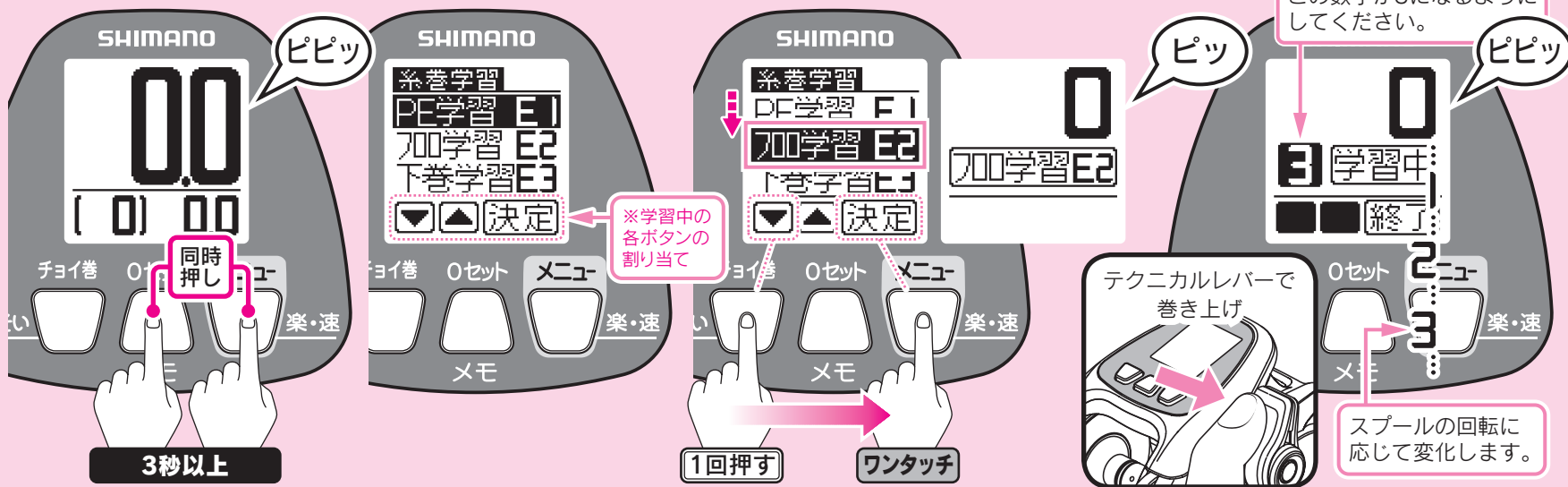
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

> **ご注意：**糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※初期設定は 300m です。（図は 300m から 200m に変更した場合です。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後１投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、63 ～ 65ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

2 簡単・便利なNEW SLS Ⅲ 糸巻学習

ナイロン・フロロ学習（E2）

1 カウント値が6ｍ以下で操作します。
6.1ｍ以上の時は0セット（40～41ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）
0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「フロロ学習 E2」を選択し、決定を押します。表示が図のように変わります。
（学習方法の選択について、詳しくは20～21ページをご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。
巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。
数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

ご注意 !! ナイロン・フロロを巻かれる際は、巻上げテンションの数字が「5」以上にならないように注意してください。スプールが変形する恐れがあります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを3秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

> **ご注意：**糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定（メニュー）ボタンを3秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は 300m です。（図は 300m から 200m に変更した場合です。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後 1 投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、63 ～ 65 ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

> 学習モード【NEW SLS Ⅲ ナイロン・フロロ学習】（E2）をされた場合 “【　】” が表示されません。フカセモードがON になります。

3 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習 下巻き学習（E3）

※PEライン4号300mを巻かれる場合：
　スプールの下巻きラインを使用してください。
※PEライン4号-200m/3号-300m/3号-200mを巻かれる場合：
　付属ゲージを使用してください。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（40～41ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）
0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 E3」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
（学習方法の選択について、詳しくは20～21ページをご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**
この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。**テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。**

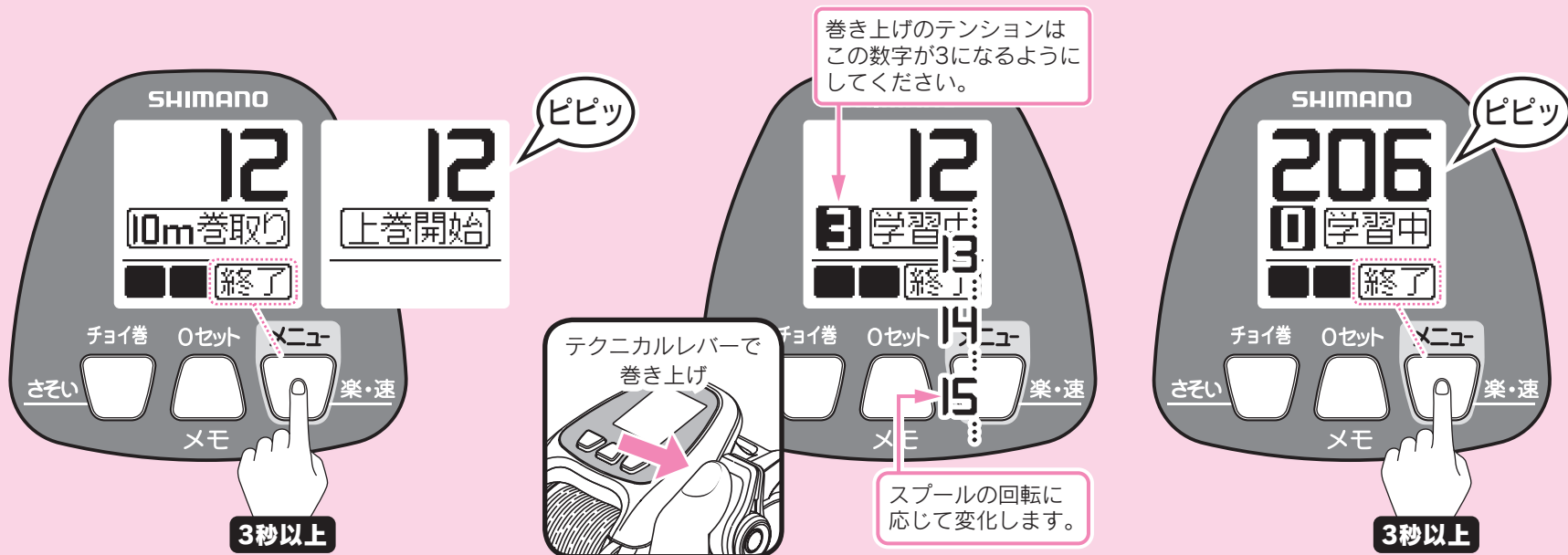
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **下巻き用の糸を巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 **上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。**
スプールの回転に応じて表示が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

7 **終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**

スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。

また、楽楽モード時の数値とも異なります。

テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。

巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 **糸を完全に巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

10 **▼▲ボタン、もしくはレバーで糸の長さをセットし、決定（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は 200m です。（図は 200m から 300m に変更した場合です。

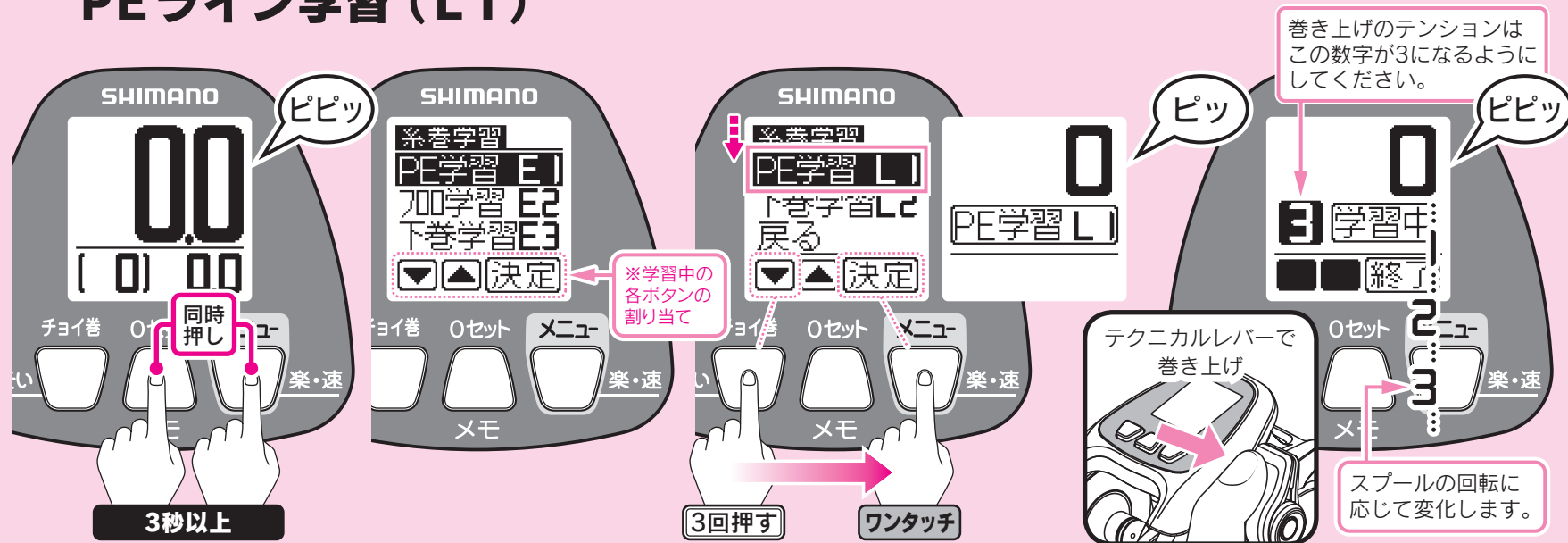
11 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後１投目の誤差です。

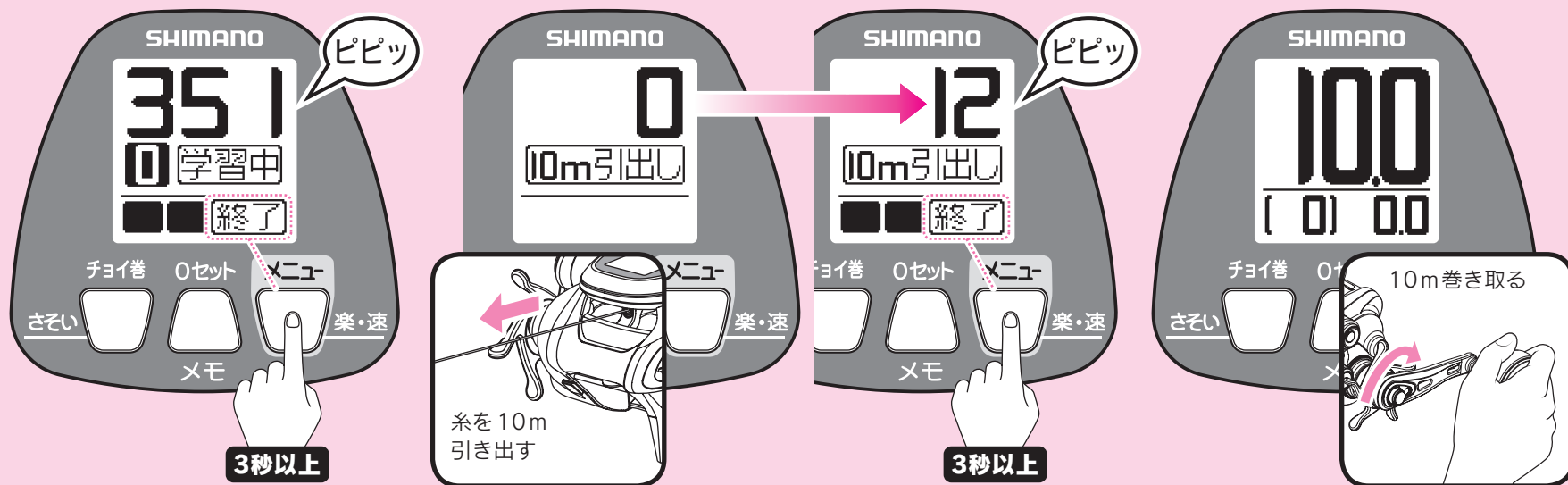
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、63 ～ 65ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

4 従来のSLS II 糸巻学習

PEライン学習（L1）

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（40～41ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）
0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「PE学習 L1」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
（学習方法の選択について、詳しくは20～21ページをご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**
この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。**テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。**

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを3秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

> **ご注意：**糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 **糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。）**
学習を終了するため、終了（メニュー）ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、63～65ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

7 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

5 従来のSLS II 糸巻学習 下巻き学習（L2）

※PEライン4号300mを巻かれる場合：
スプールの下巻きラインを使用してください。
※PEライン4号-200m/3号-300m/3号-200mを巻かれる場合：
付属ゲージを使用してください。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（40～41ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）
0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 L2」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
（学習方法の選択について、詳しくは20～21ページをご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**
この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。**テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。**

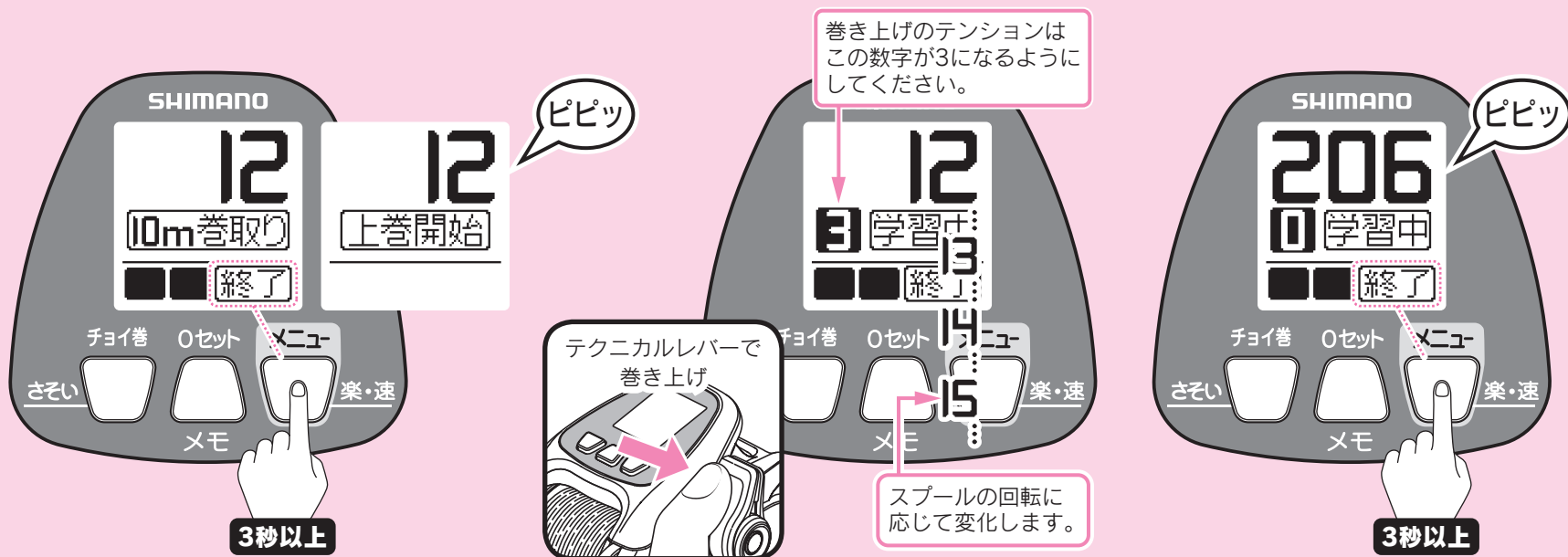
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **下巻き用の糸を巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 **上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。**
スプールの回転に応じて数値が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

7 **終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

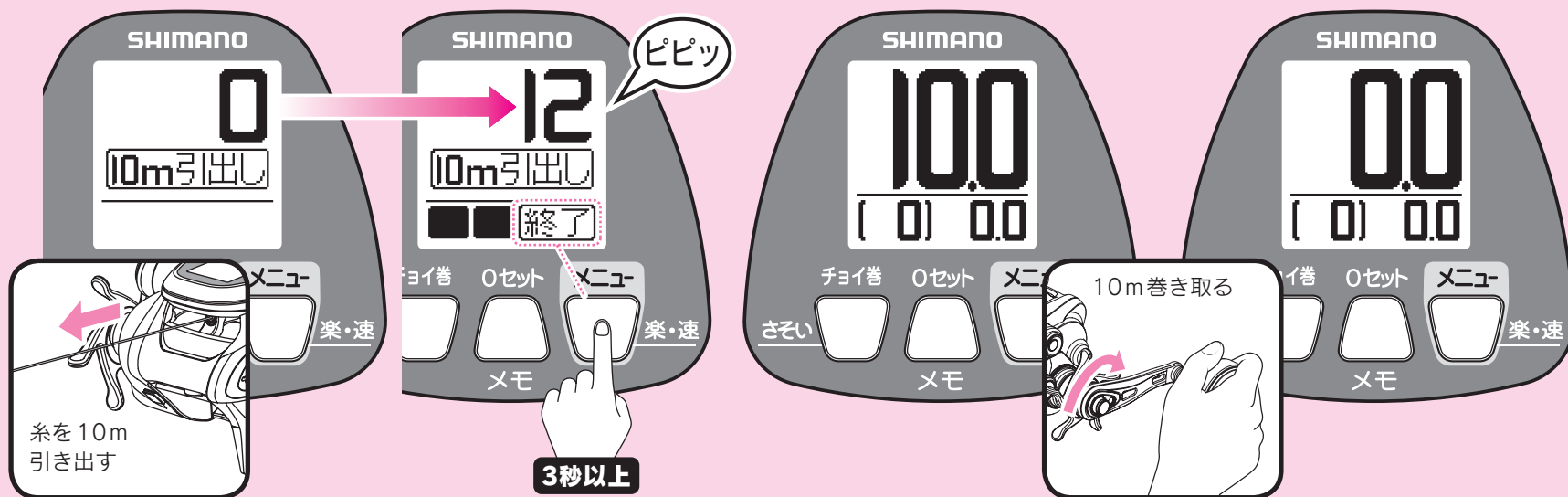
8 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**

スプールの回転数に比例した数字が表示されます。**巻き上げのテンションは3になるようにしてください。**この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 **糸を完全に巻き終えたら、終了（メニュー）ボタンを３秒以上押してください。**

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

10 **糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)**
学習を終了するため、終了（メニュー）ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

11 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われた場合は、63～65ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

12 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

糸巻学習後の手順（早く、有効に使いこなすために…）

かんたん手順

これさえ知っていればとにかく使えます。

べんり手順

簡単でとっても便利です。

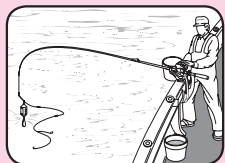
もっとべんり手順

知れば知るほど釣りの世界が広がります。

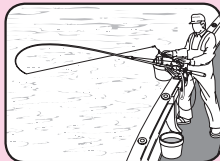
フカセモード

フカセモード時は「仕掛巻込防止機能」、「アタリ検知アラーム」の２つの機能が有効になります。

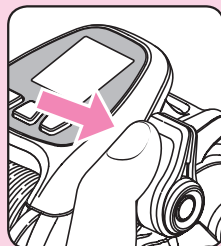
詳しくは P61～62へ!!

0セット

ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。狙った水深に正確にシカケを投入できます。

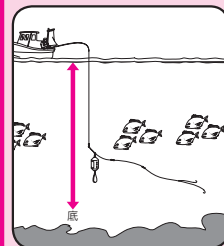
詳しくは P40～41へ!!

船べり自動停止

竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しに差がつきます。

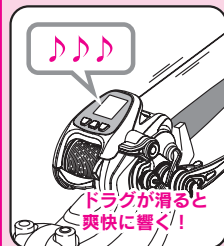
詳しくは P44～45へ!!

テクニカルレバー

巻き上げパワーまたはスピードを瞬時に調整することができます。

詳しくは P16へ!!

棚メモ

棚または底の水深をメモリーしてメモ欄に表示しておけます。底からモード時はメモ位置を０とした水深をメモ欄に表示します。

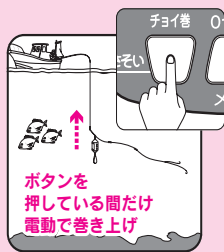
詳しくは P46へ!!

e-エキサイティングドラグサウンド

ドラグが滑ると爽快に音が鳴ります。エキサイティングドラグサウンドが電子音になりました。アングラーを白熱させる音が鳴り響きます。

詳しくは P15へ!!

e-センタリングシステム

クラッチをOFFにし、シカケ落下中にレベルワインド位置がオートでセンターに移動し、糸落がさらにスムーズになります。

チョイ巻

ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。

詳しくは
P12・14へ!!

棚タイマー

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

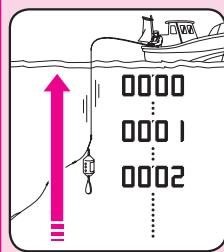
詳しくは
P12へ!!

スーパーフリースプール

クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

ご注意：
クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

詳しくは
P17・43へ!!

仕掛回収時間

電動巻き上げ時に、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

詳しくは
P60へ!!

糸落スピード表示

糸落のスピードの目安を表示中は“(　)”が点滅します。糸落スピードを安定させることにより、釣果UPにつながります。

詳しくは
P12へ!!

次ページにつづく

電動巻上負荷表示

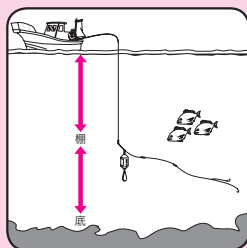
モーター巻上げ時、ラインテンションの目安を表示します。
ドラグ調整や、巻き上げスピードの調整などでハリス切れを防ぐことができ、また、魚の匹数や大きさの目安にもなります。

詳しくは
P13・15へ!!

糸巻学習補正

実際のラインマーカーとカウンターのm数を補正することで、より正確な棚取りを行えます。

詳しくは
P63～65へ!!

上から・底からモード切替え

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えできます。上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。

詳しくは
P47～49へ!!

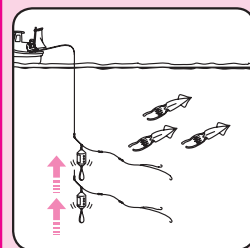
楽楽・速度一定モード切替え

スプール回転一定の
速度一定モード

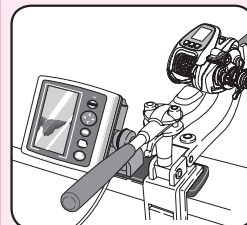
ラインテンション一定の
楽楽モード

巻き上げパワーが一定の「楽楽モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで、状況に応じた巻き上げが可能です。

詳しくは
P50～51へ!!

さそい

電動リールにさそい動作を再現させることができます。
さそいパターン「3段シャクリ」「2段シャクリ」「ウィリー」の選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力・選択することもできます。

詳しくは
P52～59へ!!

探見丸システム

船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスターが探見丸でさらに便利に！

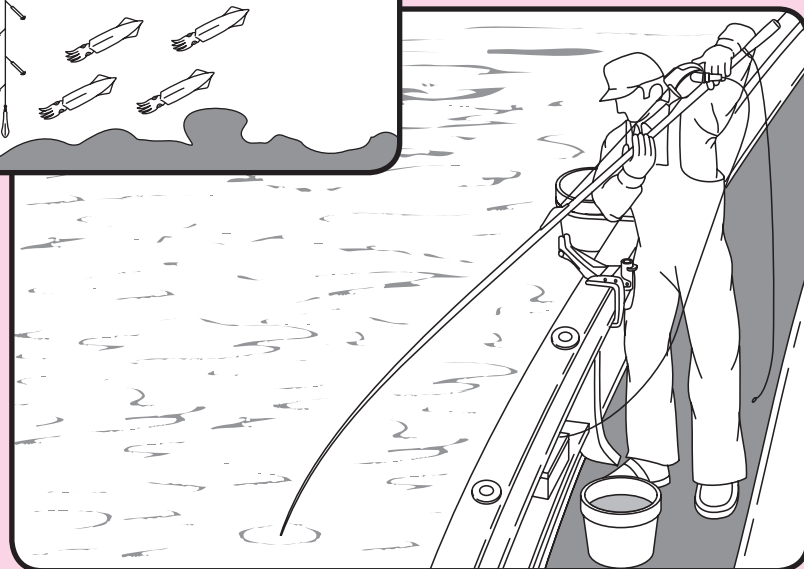
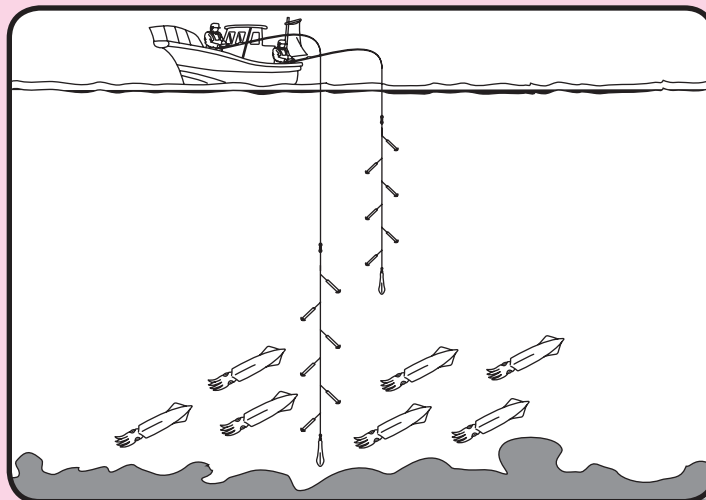
詳しくは
P66～67へ!!

シカケを速く落すテクニック。

●一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

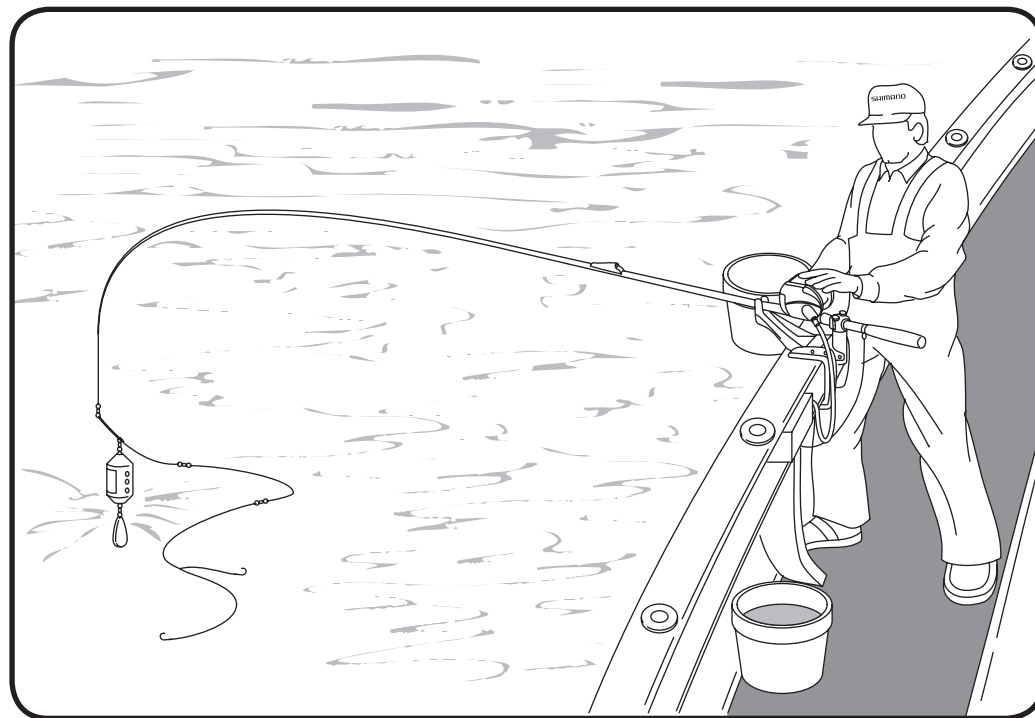
●しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

●竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。（右図）

※スーパーフリースプールを採用しておりますので、モーターを強制的に回しての「糸送り」機能は搭載しておりません。

0（ゼロ）セットの設定（釣りを始める前に必ず行なってください。）

正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。
「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。
「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。
※水深表示が10.1m 以上で0セットをすると、高切れ補正となります。

シカケが水面にある時を 0m として設定します。

0セットをしてみましょう。

1 シカケを水面に合わせ、0セットボタンを3秒以上押して下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
これで0セットは完了です。

ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れの補正

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。

1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0 セットボタンを 3 秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

ご注意！

高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。
道糸の巻き込みには十分ご注意ください。

シールドタイプ S A-RBでさらなるスプールフリーを実現！

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。

それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、レベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。

A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

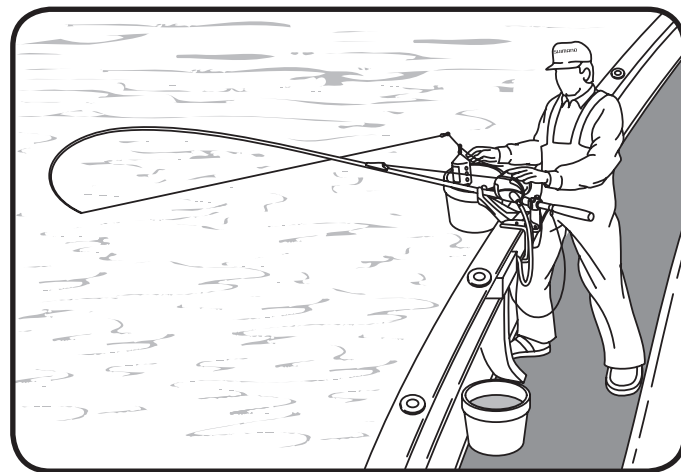
ボールベアリング 計12個中
シールドタイプ S A-RB 10個内蔵
※モーター内部に通常ベアリング2個内蔵

船べり自動停止

電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

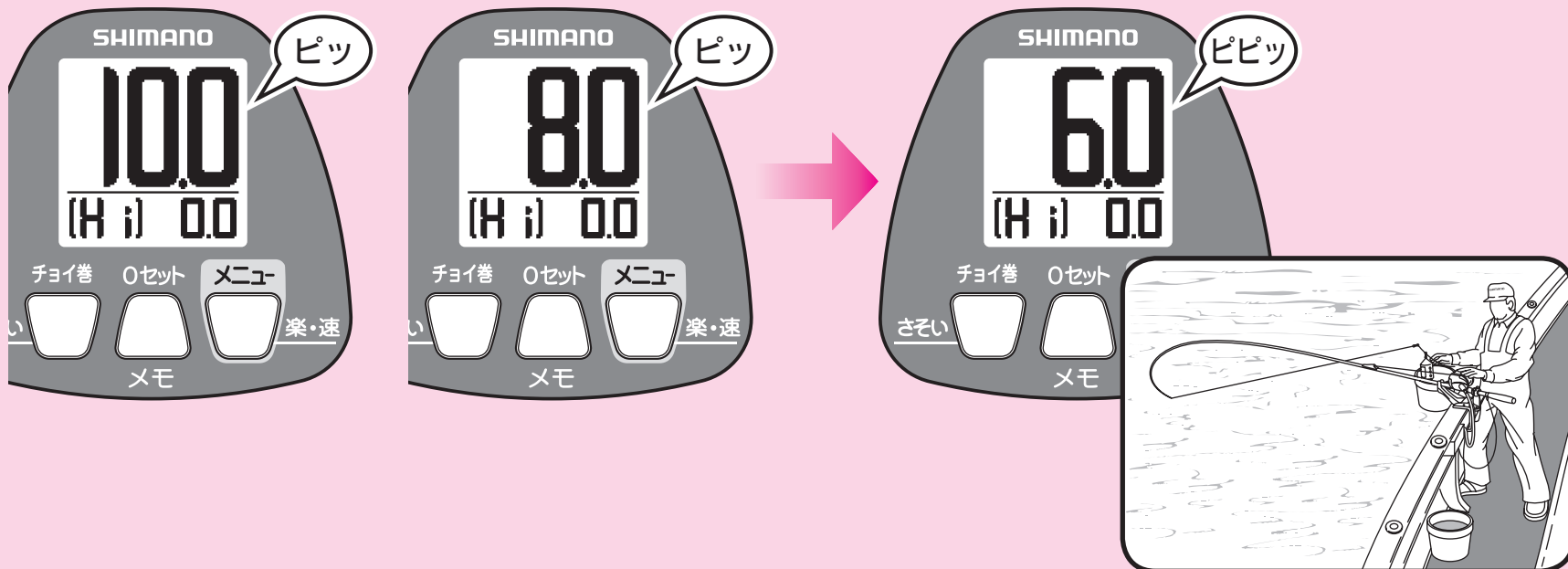
※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。
２回目以降は５秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。
（この機能は２m～６mの範囲で作動します。水深表示が１.０m未満の時は、安全のため２mの設定になります。）

※フカセモード時は船べり停止位置の自動設定が無効になり、巻き込み防止のプログラムが作動し、かなり手前で止まる場合があります。

●ワンポイントアドバイス

短い竿、例えば１mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で０セットをされますと、船べり停止機能が働く２～６mの範囲に入らなくなります。

そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で０セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で０セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズレてしまいます。

アラーム（船べり）

船べり自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。

1 セットされている船べり自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図はテクニカルレバーのHiで巻き上げた場合の表示です。

2 船べり自動停止位置（この場合は6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法

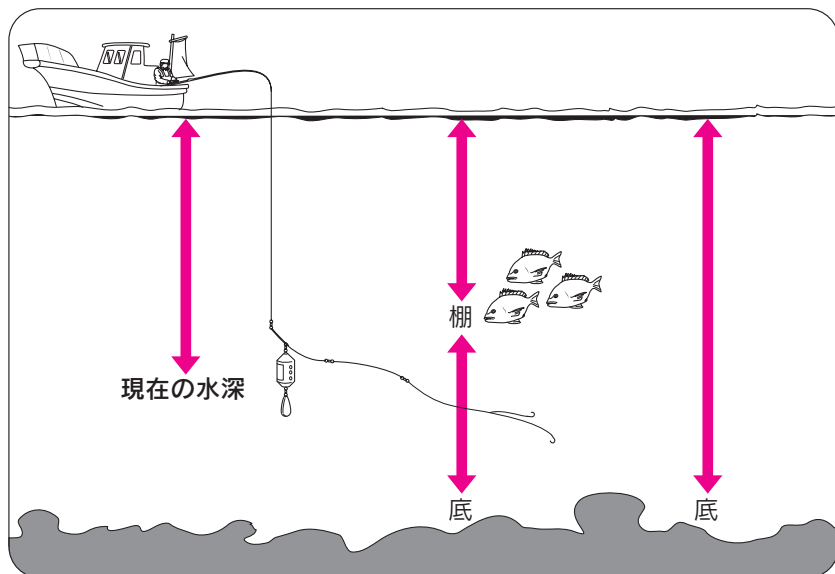
水深をメモリーするには…

シカケをメモリーしたい水深に合わせ、メモボタンを押します。
メモリーした水深がメモ欄に表示されます。（□部分）
上図の場合ですと 50.0m の水深がメモリーされます。（上からモード選択時）

※このセットは何回でも入れ換えが可能です。

２通りの棚の取り方・上からモードと底からモード

棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

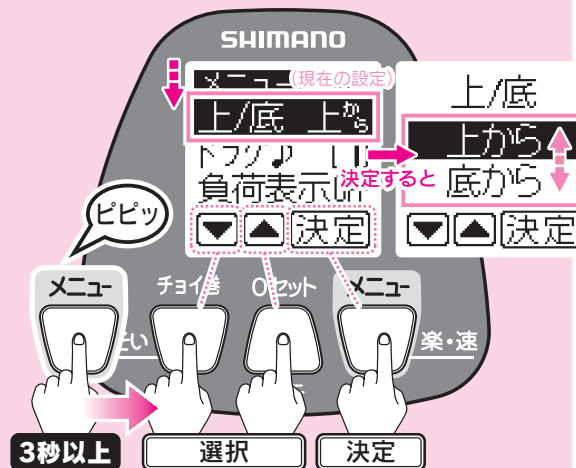
船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。
通常、船長がこの棚を教えてくれます。
この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。
本製品は底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えできます。
その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

モードを切り替えるには…

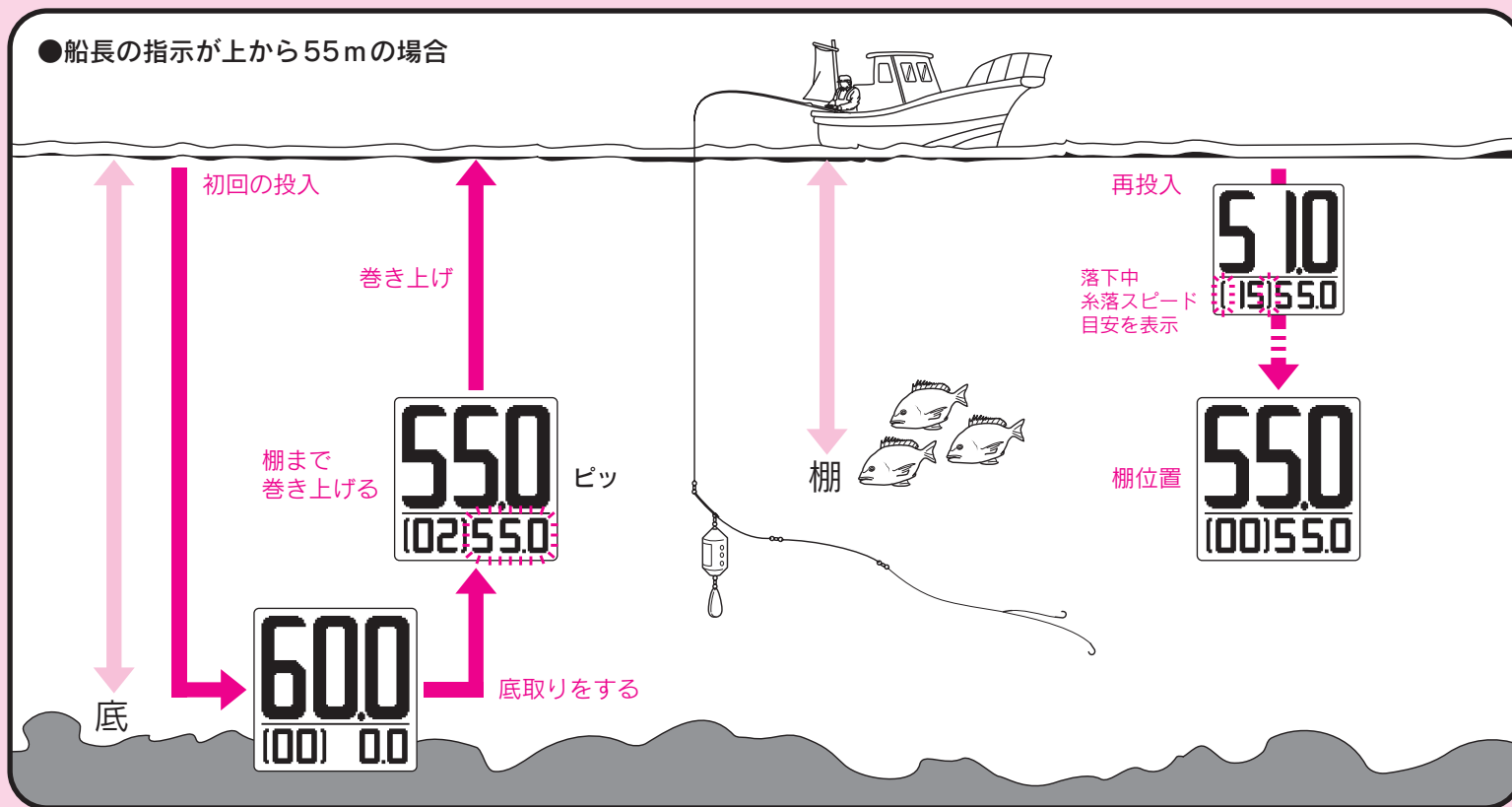
電源を入れた際は上からモードで起動します。

1. **水深画面でメニューボタンを３秒以上押すとメニュー画面が表示されます。**

2. **▼ボタンを数回押して「上／底」を選択します。**
機能名の右は現在の設定を表します。
（図の設定は例です。）
決定ボタンを押すと「上／底」のメニューが表示されます。

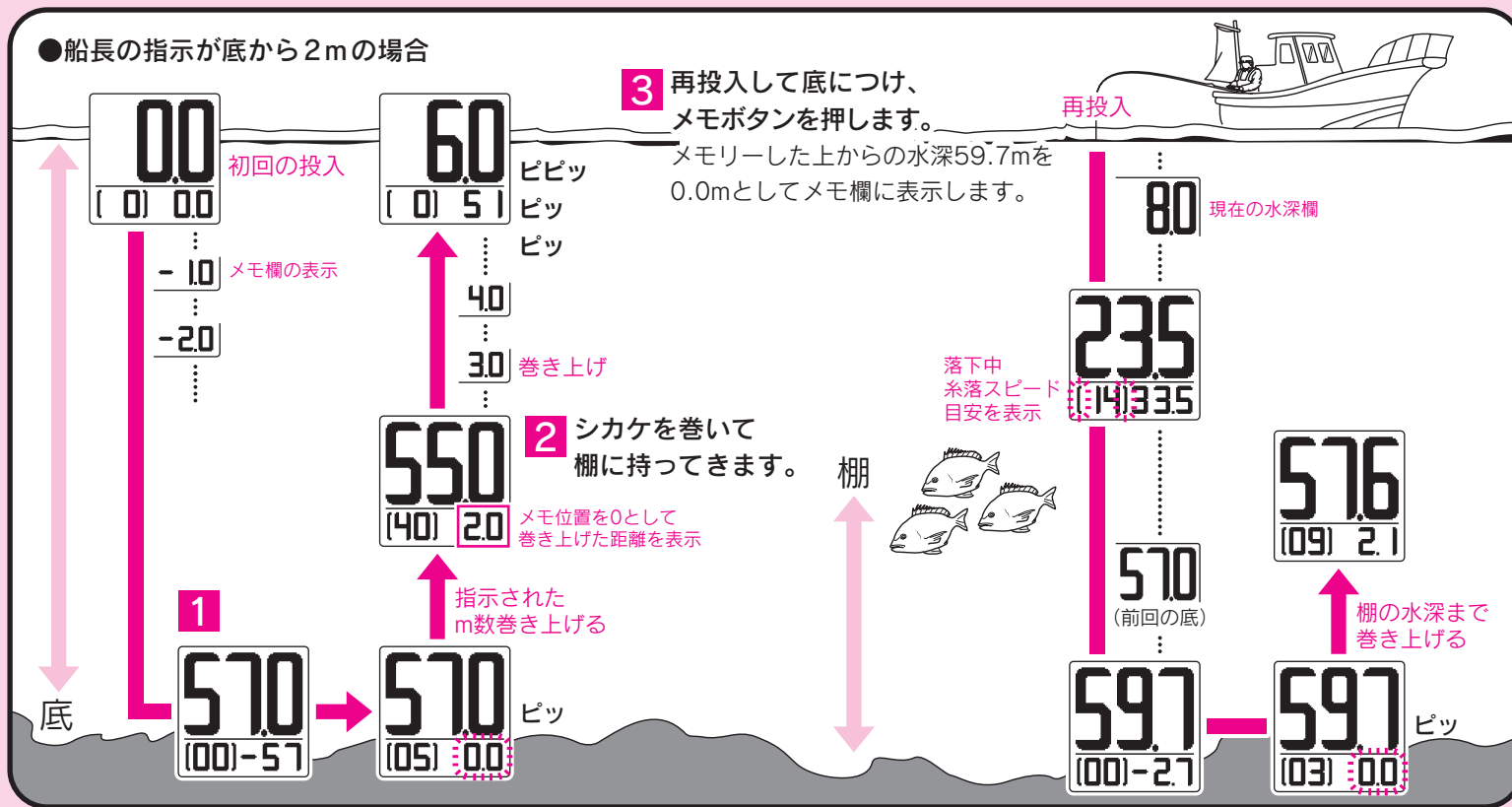
3. **▼▲ボタンで「上から」または「底から」を選択し、決定ボタンを押してください。**

メニュー画面の操作について、詳しくは 13 ～ 15 ページをご参照ください。

次ページにつづく

上からモードの実釣編

1 シカケをいったん底につけます。

2 シカケを巻いて棚に持ってきます。
メモボタンを押して棚をメモリーします。

以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。

3 再度投入した際、メモリーした水深にシカケをおろします。

1 シカケをいったん底につけ、メモボタンを押します。

メモリーした上からの水深を 0.0m としてメモ欄に表示します。
リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深が確認できます。

解説！

船長の指示が「底から何 m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示された m 数だけシカケを上げます。（通常この時にコマセを振ります。）

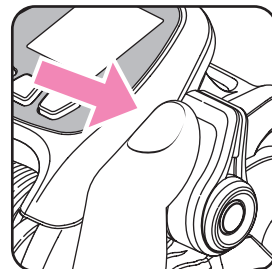
1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

●電源を入れた際には楽楽モードで起動します。
楽・速ボタンを押すことにより、
速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。（右図）
巻き上げ中も切り替えが可能です。

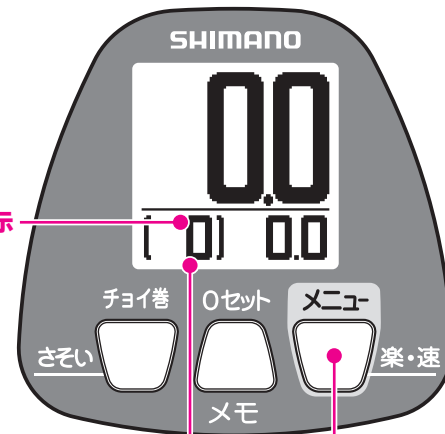
モードの切り替え時に〔**楽**〕（楽楽モード）または〔**速**〕（速度一定モード）をカウンターに３秒間表示して、作動したモードをお知らせします。

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物の大きさ、つまりリールにかかる負荷の大きさに関係なく、常に設定された速度※を保つようにモーターのパワーを自動的に調整して、一定の速度で巻き上げます。
（※速度→電動リールのスプール回転速度）

ご注意：設定値 **1** ～ **4** は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

テクニカルレバー

■テクニカルレバー
巻き上げパワーまたはスピードを瞬時に調整することができます。

◎テクニカルレバーの設定表示
テクニカルレバーの操作時に巻き上げパワーまたはスピードを表示します。
※「0 ～ Hi」の 31 段階

◎現在のモード
楽楽モードへ切り替え時には〔**楽**〕を３秒間、
速度一定モードへ切り替え時には〔**速**〕を３秒間表示します。

■楽・速ボタン
速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。
巻き上げ中の操作も可能です。

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、設定した巻き上げパワーを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転スピードを自動的に変化させ、常に一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったりしたときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。

これなら楽だし、手巻き感覚で安心です!

※工場出荷の初期設定は「楽楽モード」となっております。

さらにこんなメリットも…

●活きエサを除くすべての釣りをカバー。
テンションの軽いシカケ回収の際には、ほぼ最高速で巻き上げてくるため、電動の速度調整がいらず非常に簡単便利。

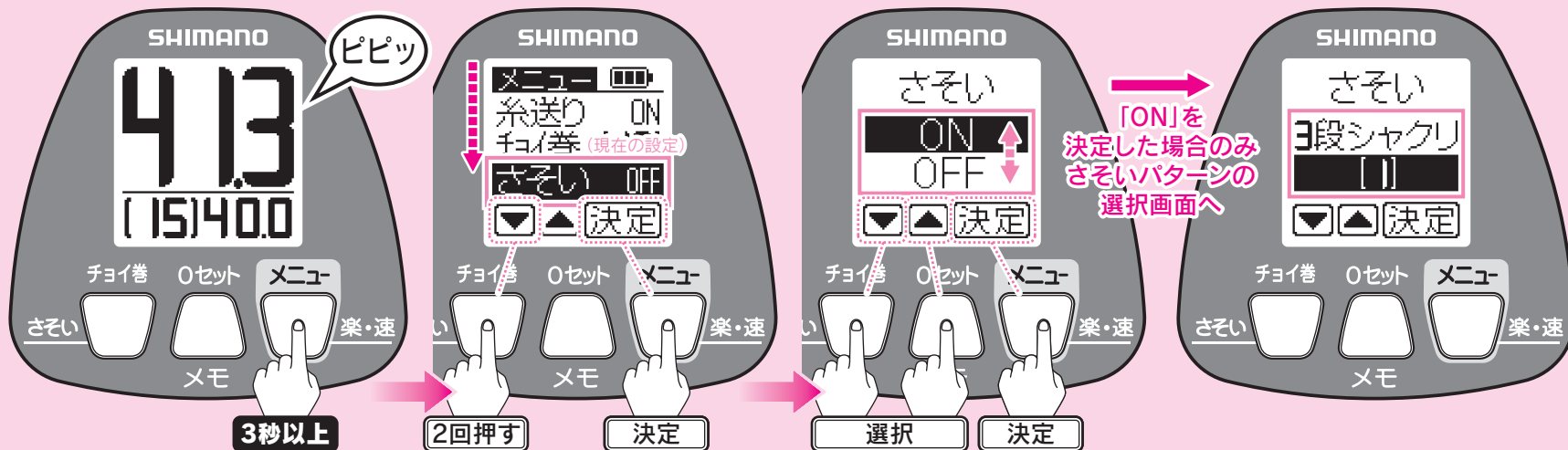
●テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。

●電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

ご注意：
設定値 1 ～ 4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

名人のさそい、またはお好みのさそいをリールが再現します。

一日中シャクリ続けるイカ釣りには特に便利です。

探見丸との通信中は、電動リールからの操作はできなくなりますのでご注意ください。

1 電源を入れた際は、さそい機能OFFで起動します。

水深画面でメニューボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 **▼ボタンを2回押して「さそい」を選択します。**

機能名の右は現在の設定を表します。
（図の設定は例です。）

決定ボタンを押すと「さそい」のメニューが表示されます。

▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定ボタンを押してください。

（メニュー画面の操作について、詳しくは13～15ページをご参照ください。）

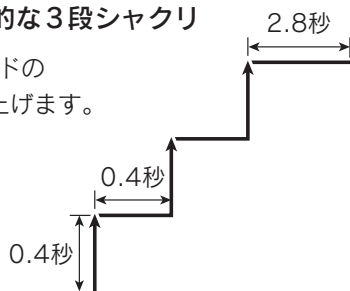
3 「OFF」を決定した場合はメニュー画面に戻り、設定完了です。

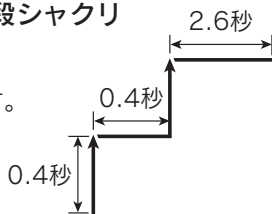
「ON」を決定した場合のみ、さそいパターン番号の選択画面になります。

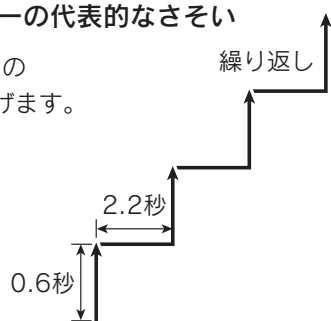
[1]～[3]は右記のさそいパターン、
[4]と[5]はお好みのさそいパターンとなっています。

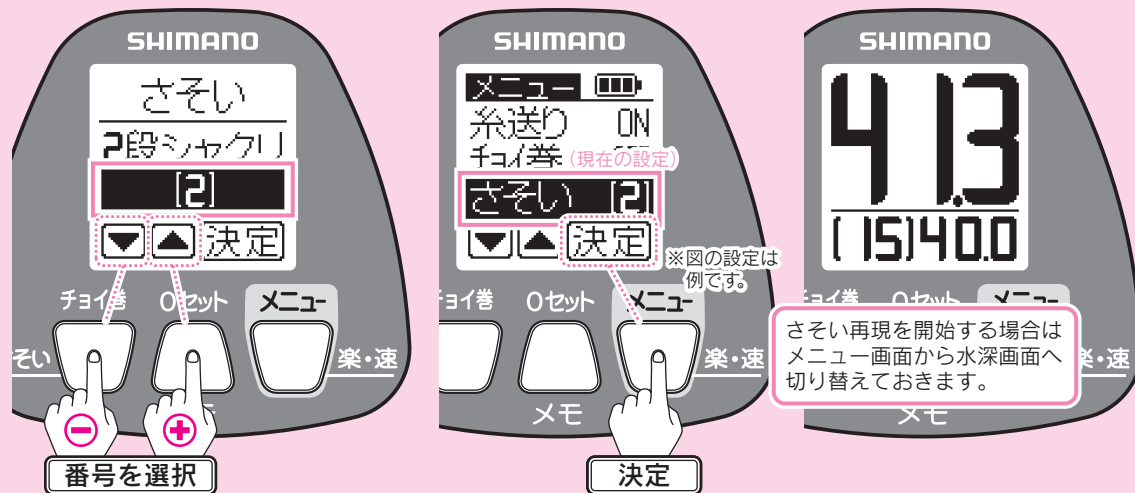
[4]・[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。お好みで新しいさそいパターンを入力し直すことができます。

[1] …代表的な3段シャクリ

速度一定モードの
28速で巻き上げます。

[2] …代表的な2段シャクリ

速度一定モードの
28速で巻き上げます。

[3] …ウイリーの代表的なさそい

速度一定モードの
16速で巻き上げます。

[4]・[5] …お好みのさそいパターン

注意： カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 ▼▲ボタンでさそいパターンの番号を選択してください。

※ご注意
あらかじめ記憶しているさそいのパターンは代表的な例であり、竿の調子・オモリ負荷・水深等、条件によって動作は変化します。実情に合わない場合はお客様オリジナルのパターンを入力の上、再現される事をお勧めします。

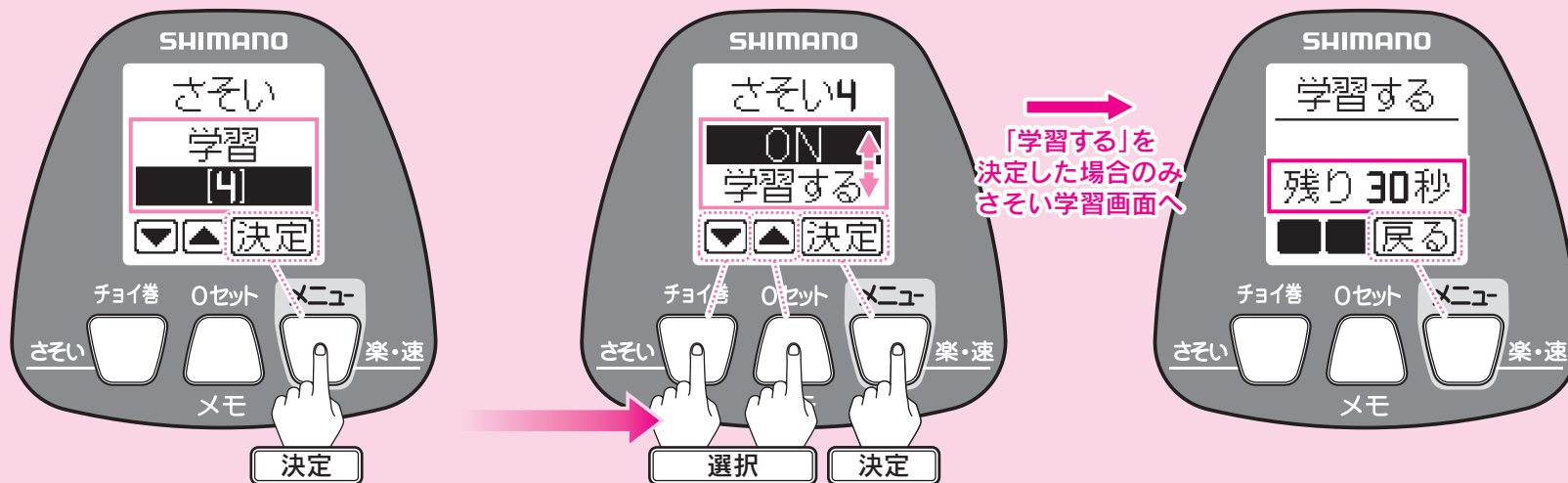
[4]・[5]のお好みのさそいパターンを選択される場合は、ここから次ページ「さそいの学習」へお進みください。

5 決定ボタンを押せばメニュー画面に戻り、設定完了です。

（図は[2]を設定した場合の例です。）
メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ります。
これでリールにさそいを再現させる準備ができました。

さそいを開始する場合は57ページ「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

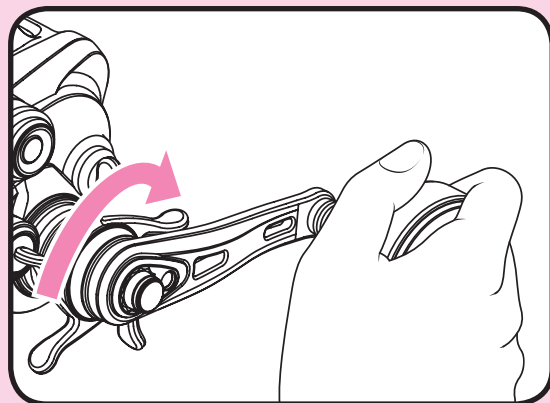
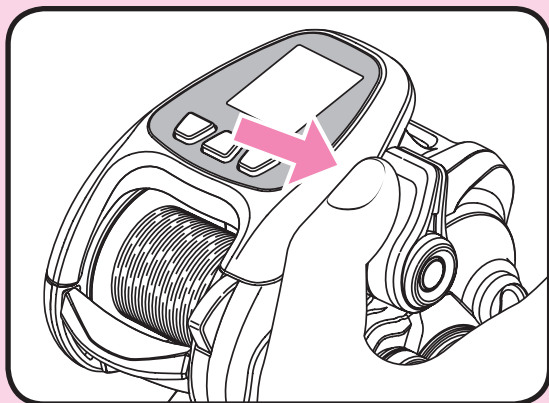
さそいの学習

あなたのオリジナルのさそいパターンも学習・再現できます。

1 さそいパターンの[4]か[5]を選択し、決定ボタンを押してください。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 さらにメニューが表示されます。
[4]か[5]にすでに入力済みのお好みのパターンを選択する場合は「ON」、新しいパターンを入力し直す場合は「学習する」を選択し、決定ボタンを押してください。
「ON」を決定した場合はメニュー画面に戻り、さそい再現の準備が完了します。

3 「学習する」を決定した場合のみ、ここでさそい学習画面になります。
さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。
□部分に記憶可能な秒数が表示されます。
レバーやハンドルで巻き上げ始めると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。
さそい学習を中止したい場合は、[戻る]（メニュー）ボタンを押してください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

●テクニカルレバーで入力する場合

記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

●ハンドルで入力する場合

好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

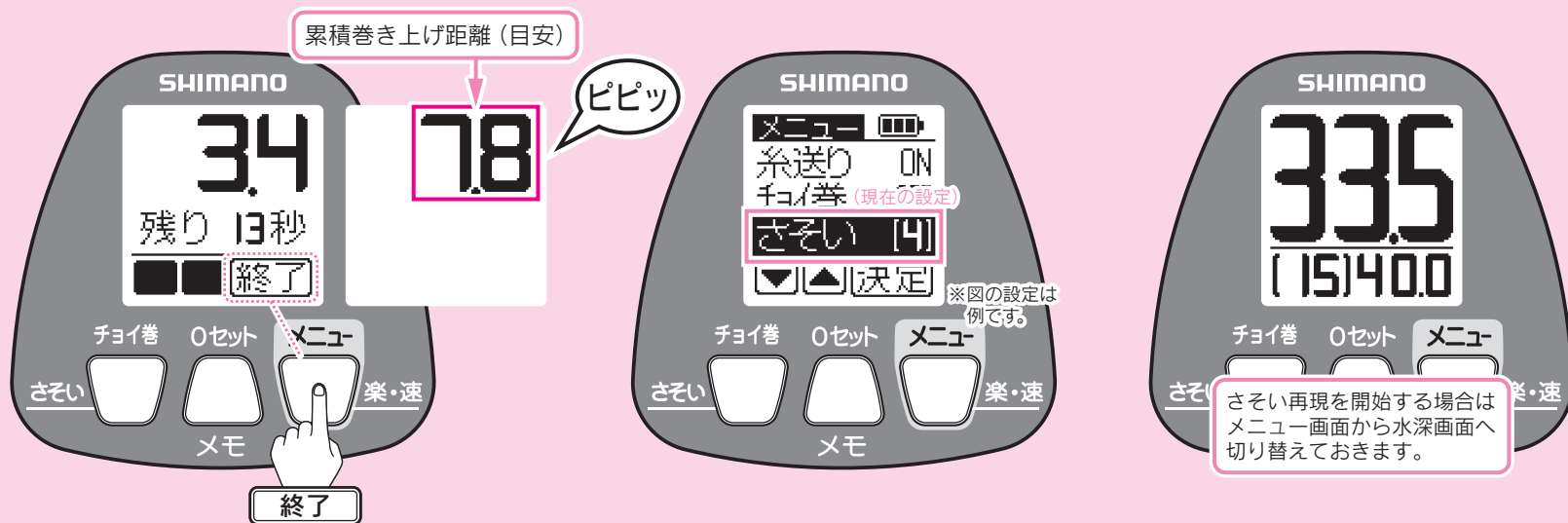
ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。

また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。

4 **テクニカルレバーかハンドル操作でさそい学習を開始し、お好みの巻き上げ時間、停止時間を再現してください。**

記憶可能な残り秒数のカウントダウンが開始し、□部分にひとつの動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

5 終了ボタンを押せばさそい学習が完了します。

決定ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。
カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。
さそい学習終了時は累積巻き上げ距離の目安が図のように2秒間表示されます。（□部分）

6 2秒後、自動的にメニュー画面に戻り、設定完了です。

（図は[4]を設定した場合の例です。）
さそい学習を間違えたり、やり直したい場合は、再度メニュー画面からさそい学習へ進み、動作を入力してください。
※新たにさそい学習を入力しますと、前の学習データは消えます。

メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ります。
これでリールにさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は次ページ「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

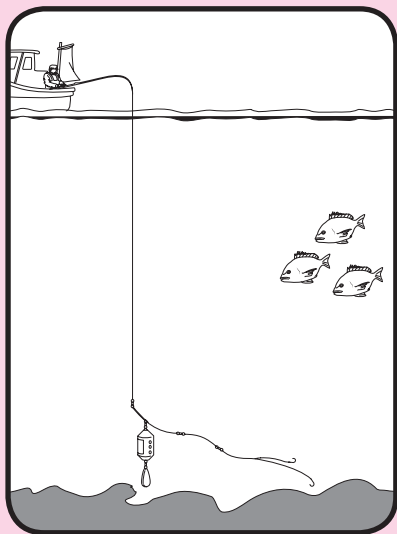
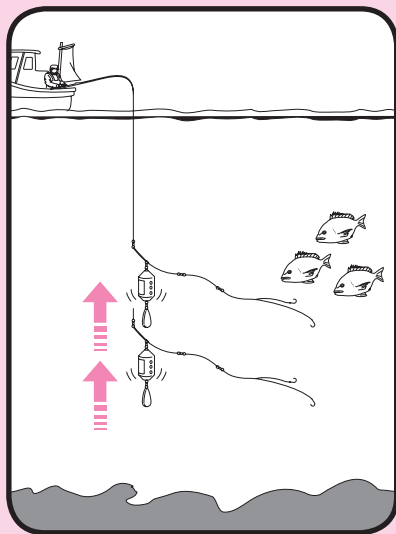
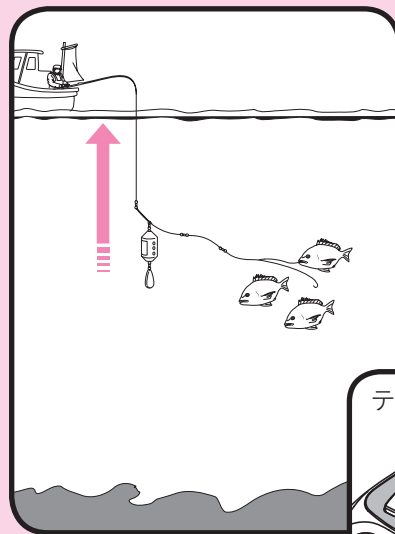
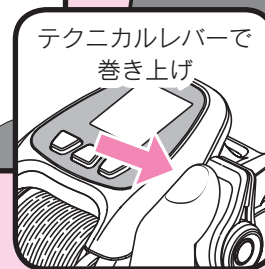
さあ！
いよいよ設定したさそいを再現してみましょう。

1 52～56ページをご参照いただき、さそい機能をONに設定しておきます。
メニュー画面が表示されている場合は、メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面に切り替えてください。

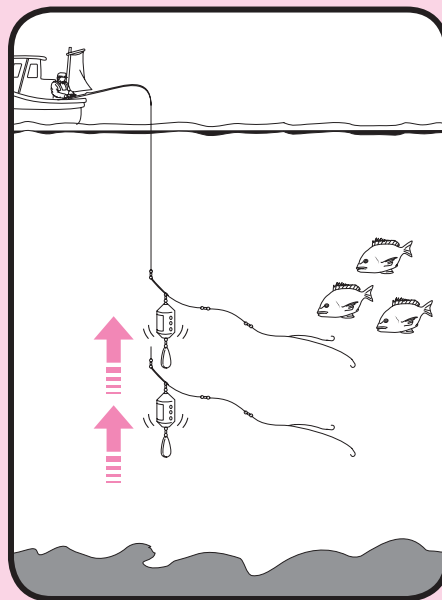
注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 **シカケを棚までおろし、さそいボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。**
さそい動作中は水深画面に〔**さそい**〕が表示されます。
※さそい機能のON時は、チョイ巻機能は自動的にOFFになります。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいボタンを押します。
※船べり停止以降はモーター停止します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

3 アタリがあればテクニカルレバーで巻き上げます。

※さそい動作の途中でテクニカルレバーにてシカケ回収を始めた場合、さそい動作は解除され巻き上げ優先となります。

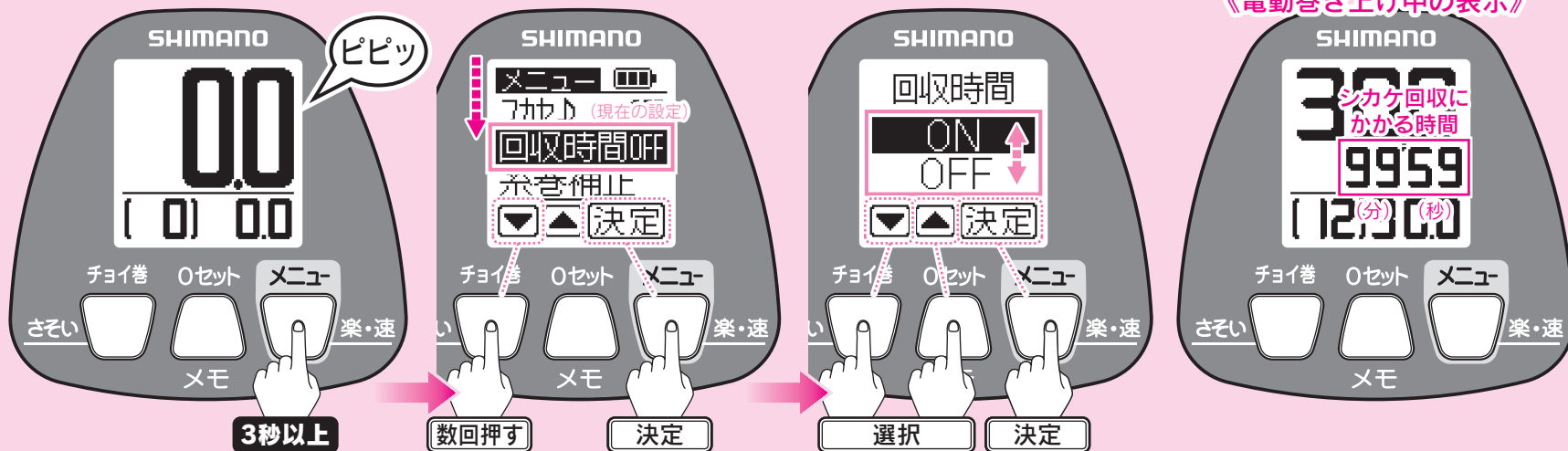
魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして さそい動作を行いましょう。

さそいボタンON
再びさそい開始！

4 **仕掛け回収で船べり自動停止後、同じさそい動作を続ける場合、シカケをもう一度棚までおろします。**

変更する場合はメニュー画面からさそいを設定しなおしてください。

シカケをおろした後、さそいボタンを押すと、再度記憶した動作をくり返し行います。

電動巻き上げ時、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

仕掛回収時間のON/OFFは下記の操作で可能です。

1 電源を入れた際は仕掛回収時間OFFで起動します。図の水深表示はOFFになっている場合の例です。

水深画面でメニューボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 **▼ボタンを数回押して「回収時間」を選択します。**

機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)

決定ボタンを押すと「回収時間」のメニューが表示されます。

▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定ボタンを押せば設定完了です。

(メニュー画面の操作について、詳しくは13～15ページをご参照ください。)

仕掛回収時間ONを決定した場合、水深画面に戻ると表示が図のように変化し、電動巻き上げの際にシカケ回収にかかる時間を表示します。

最大で99'59(99分59秒)まで表示し、これ以上かかる場合は「99'59」の点滅となります。

シカケの巻き込みを防止し、アタリをお知らせします。

フカセモード時は以下の２つの機能が有効になります。

1 仕掛巻込防止機能

フカセ釣りの様な軽負荷の釣りにおいては、シカケだけの回収、魚が掛かっての回収で負荷が大きく変わります。

電動リールの糸巻き学習は一定の負荷で回転数を記憶させているため、負荷の変動が大きいと誤差も大きくなり、ナイロン、フロロと伸びの大きい道糸を使用されますと、さらに誤差が大きくなります。時には竿の穂先にシカケを巻き込んで、穂先の破損をまねく場合もあります。

フカセモードがONの場合、穂先の巻き込みを防止するプログラムが働き、安全、快適に釣りを楽しむことができます。本プログラムは、シカケを回収している際のリールの負荷が大きいと感じた時は船べり停止を6mに設定し、負荷が軽いと感じた時は出した糸の量の10％（100m出せば10m、6m以内になるようなら6m）で船べり停止を設定します。

※どちらもカウンター表示での数字となるため、実際のメートル数とは異なってきます。20速以上でこの機能はONとなりますので軽負荷で20速未満で巻きますと、穂先に巻き込む場合もあります。

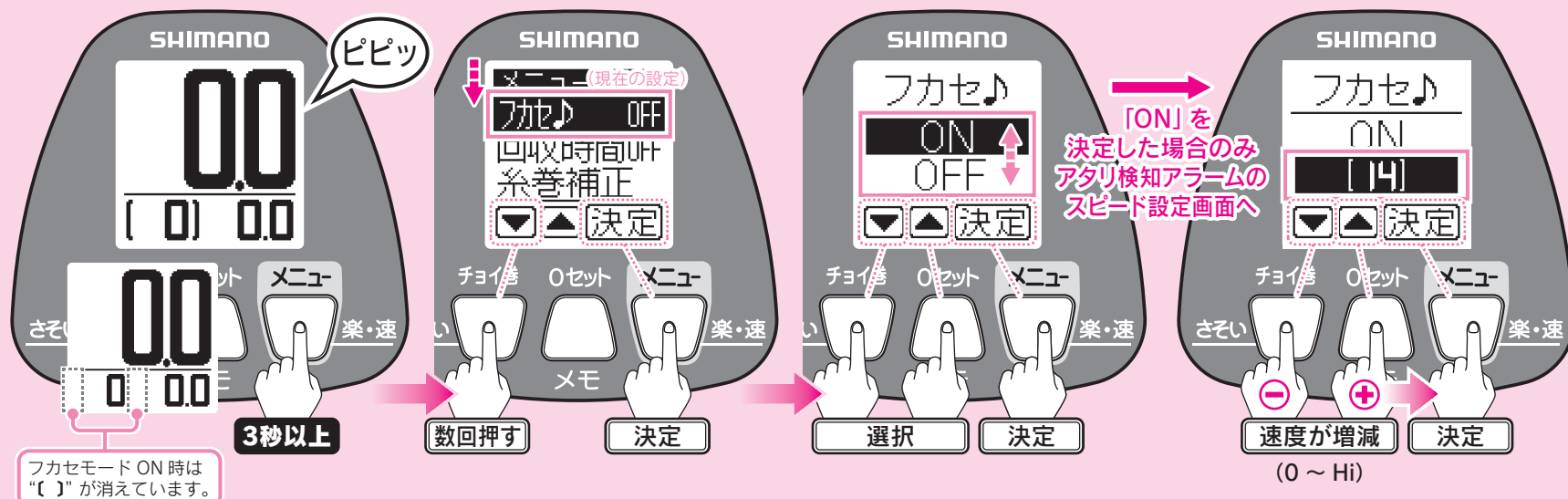
2 アタリ検知アラーム

クラッチ OFF で糸を出している状況で、設定した速度よりも早いスピードで糸が引き出された時にアタリアラーム「ピッピッピッ…（3 秒間）」が鳴り、アタリを知らせてくれます。また、その設定値はお客様で変える事も可能です。初期設定は“OFF”となっています。

※モーターがOFFの状態でカウンター表示20m以上の時に有効です。

※設定速度の変更は、メニュー画面からフカセモードONを決定すると表示される設定画面で行えます。(次ページ参照)

次ページにつづく

フカセモードの ON/OFF、アタリ検知アラームのスピードの設定について…

1 電源を入れた際はフカセモードOFFで起動します。糸巻学習「フロロ学習 E2」の終了後は、フカセモードが自動的にON になります。
※フカセモード ON 時は水深画面の “〔 〕” が消えています。

水深画面でメニューボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 **▼ボタンを数回押して「フカセ♪」を選択します。**
機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)
決定ボタンを押すと「フカセ♪」のメニューが表示されます。
▼▲ボタンで「ON」または「OFF」を選択し、決定ボタンを押してください。
(メニュー画面の操作について、詳しくは13～15ページをご参照ください。)

3 「OFF」を決定した場合はメニュー画面に戻り、設定完了です。
「ON」を決定した場合のみ、アタリ検知アラームのスピード設定画面になります。

アタリ検知アラームのスピードの設定

数値を▼▲ボタンで増減してお好みのスピードに設定し、決定ボタンを押してください。
※ 0 ～ Hi まで設定できます。
初期設定は 14 です。

カウンターの水深と実際のラインマーカーのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。

1 カウント値が10m以上の時に有効です。
現在の水深表示を切りのいい数値（少数以下を0）に合わせてください。
少数以下を0にしますとラインマーカーで合わせることができます。ラインの色が変わる前後（10m単位）がより分かり易くなります。

※ 100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

2 **A・Bいずれかの操作で糸巻学習補正に入ってください。**
2通りの操作方法があります。いずれの操作からも同様に補正を行うことができます。

Ⓐ メニュー画面からの操作

メニューボタンを3秒以上押すと、メニュー画面が表示されます。
▼ボタンを数回押して「糸巻補正」を選択し、決定ボタンを押してください。
（メニューの操作の詳細はP.13～15参照）

Ⓑ ボタンによる操作

0セットボタン、メニューボタンを両方同時に3秒以上押すと糸巻学習補正に入ります。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※この方法で行った場合、補正完了後は水深画面に戻ります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

3 **ここで、実際の糸の位置**（例図の場合ですと30 m）**を水面に合わせてください。**

※この時、糸を出し入れしても表示は変わりません。

※ただし、モーターの作動（補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等）はキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正値が使用されます。

決定（メニュー）ボタンを押して補正を確定してください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

Ⓐ のメニュー画面からの操作の場合

メニュー画面に戻り、補正が完了します。
メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ると、補正後の水深が表示されます。

Ⓑ のボタン操作からの場合

水深画面に戻り、補正が完了します。
現在の水深画面に補正後の水深が表示されます。

補正を確定されますと電源をOFFされましても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

1
あ!
カウンターと道糸の
マーカーがずれている!!
103
(17) 0.0
100m
海
2
その時は
糸巻学習補正
があるよ!
どうするの?
メニューボタン
3秒以上押しで
メニュー画面へ
3秒以上
メニューから
「糸巻補正」を
選択して決定します。
選択
決定
※もしくは水深画面の状態から…
0セットボタン・メニューボタン同時3秒以上押し
でも糸巻学習補正に入ることができます。
同時3秒以上
3
水深が表示されたけど
糸を出し入れしても
動かないよ!
103
表示の水深に
補正して下さい
決定
4
そう、その時に
カウンター表示と道糸のマーカーが
同じになる様に道糸を出し入れし、
103m
103
表示の水深に
補正して下さい
決定
決定(メニュー)ボタンを
押せば OK!
次からバッチリ!
ワンタッチ

探見丸システム接続時の機能一覧

この電動リールを探見丸に接続された場合、探見丸で下記の機能が使用可能になります。

探見丸単体の機能④⑥⑦⑯⑰を含む、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧下さい。

対応電動リールの機種、使用される探見丸の機種により使用可能になる機能は異なります。画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

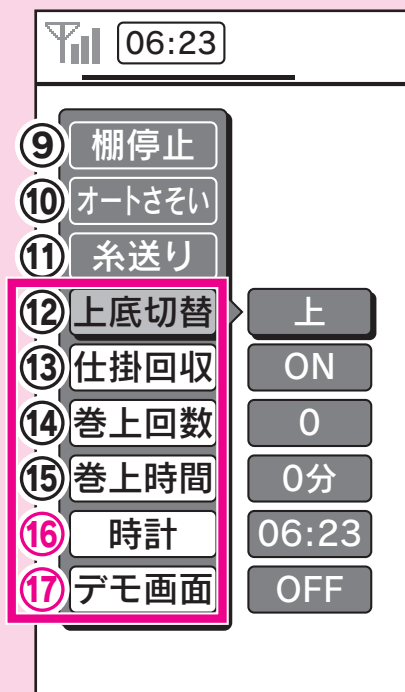
探見丸メニュー画面 1

06:23

番号	項目	設定
①	楽速切替	楽楽
②	さそい	OFF
③	さそい幅	連続
④	底拡大	OFF
⑤	位置補正	OFF
⑥	ボトムライン	OFF
⑦	背景色	白色
⑧	シカケ軌跡	OFF

探見丸メニュー画面 2

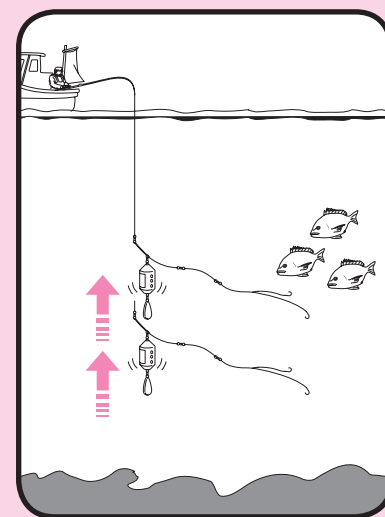
06:23

番号	項目	設定
⑨	棚停止	
⑩	オートさそい	
⑪	糸送り	
⑫	上底切替	上
⑬	仕掛回収	ON
⑭	巻上回数	0
⑮	巻上時間	0分
⑯	時計	06:23
⑰	デモ画面	OFF

① [楽速切替]…

電動リールの楽楽モード・速度一定モードの切り替えが探見丸から操作可能です。

② [さそい]…

電動リールにさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または [学習] でオリジナルのさそいパターンを入力できます。

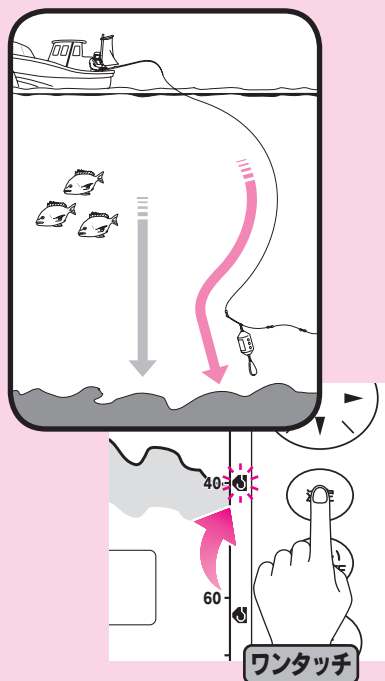
※電動リール側からのさそい「ON/OFF」はできません。探見丸側からのみとなります。

※イラストはイメージです。

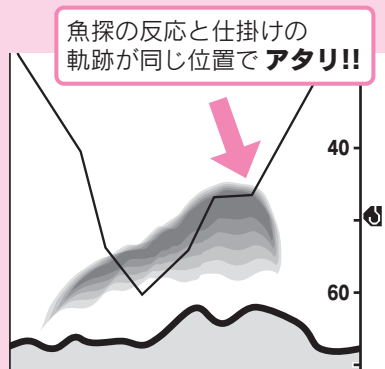
③ [さそい幅]…

さそい動作を行う幅の指定ができます。

⑤ [位置補正]…

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。（右図）探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

※電動リールからは位置補正できません。探見丸からのみ操作できます。

⑧ [シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。

⑪ [糸送り]…（本製品には対応いたしません。）

電動リールの自動糸送り機能の [ON]・[OFF] が探見丸から操作可能です。

⑫ [上底切替]…

電動リール水深表示の **[上から]**（水面から）・**[底から]** を探見丸から設定できます。

⑬ [仕掛回収]…

[ON] にするとレバー回収時に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。

⑭ [巻上回数]…

[ON] にすると船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数がメニュー画面の巻上回数欄に表記されます。

⑮ [巻上時間]…

[ON] にするとモーターが作動していた時間がメニュー画面の巻上時間欄に表記されます。

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ずケーブルを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかり締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を２～3m出します（図参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

※ベアリングの塩カミについて

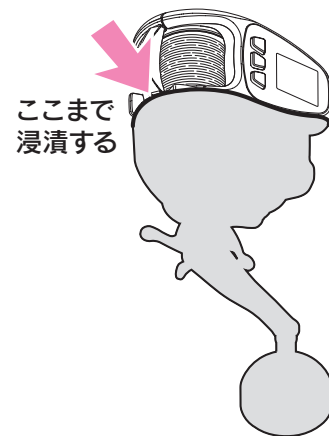
S A-RB（シールド耐塩水ベアリング）はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RBを取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RBごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法（スプール回転性能に低下が見受けられた場合）

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合（リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合）

※ケーブルは必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて（右図参照・リール全体を浸水させないでください。）スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。

2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
（リール内部に溜まった水を完全に排水させます。）
上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

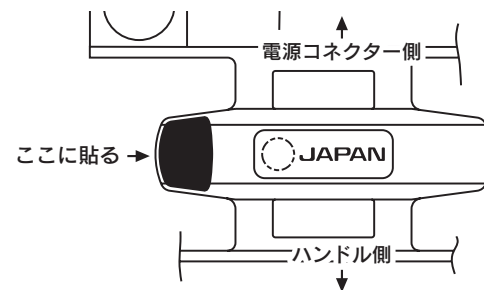
3 ご使用上の注意

●電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けますと、ドラグ部分のグリス焼け→ドラグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
●根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
●リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
●リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
●船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようご注意下さい。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。
●偏光グラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。
●高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。
●樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用下さい。
●スーパーフリースプールを採用しているリールにつきましては、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっている事をご確認の上、クラッチをONにしてください。
●スーパーフリースプールを採用しているリールにつきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A（BT-021B）をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合がございます。（その場合、電動リールの液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

●「脚調整シート」のご使用方法

ご使用になるロッドのリールシートの形状によりましては、リールがしっかりと固定されずガタが出る場合があります。このような場合、同梱の「脚調整シート」をご利用ください。

1. リールの脚裏に挿絵の様に片側だけ（リールシートのネジフードに入り込む側）に貼っていただき、ガタが止まったかどうか確認してください。

2. 1を行ってもガタが止まらない場合は、もう片方の脚裏にもシートを貼ってください。その際、リールシートとの掛かり代が十分であるかご確認ください。3mm以上リールシート内に入り込んでいればＯＫです。

3. 2の様に両方に貼ってもガタが止まらない場合は、規格外となりますのでご使用をお止めください。

※ご注意

リール脚裏の両方に貼ってしまうと、リールシートとの掛かり代が少なくなり、最悪の場合、リールが外れてしまう場合があります。

次ページにつづく

4 お手入れの方法

●**定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼下さい。**
リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に 1 度はお預けいただくことをおすすめいたします。

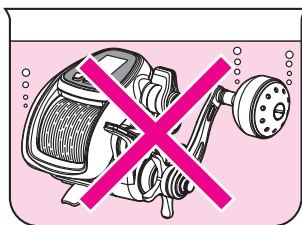
●保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

●リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。

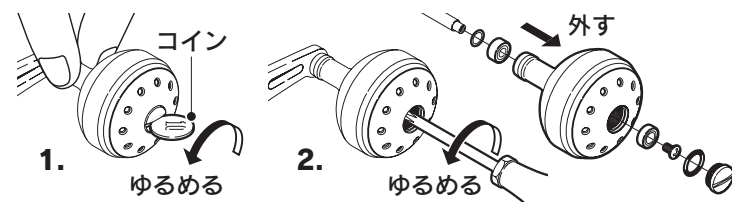
●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。

●ドラグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。

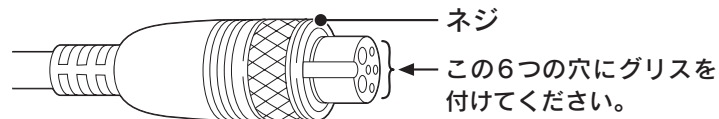
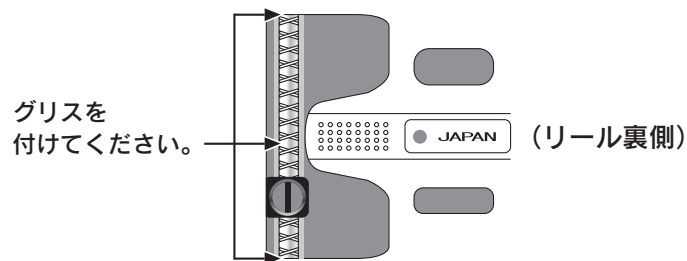
●高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）

●**ハンドルノブの取り外し方**

1. ノブを手で押さえながら、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。

2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。

●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。
〔図 1〕、〔図 2〕の箇所に付けていただくようお願いします。

シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

〔図 1〕ケーブルの端子の 6 つの穴
リール本体側のケーブルの端子にも塗布していただくと、より効果的です。

〔図 2〕ウォームシャフトとウォームシャフト両側

5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

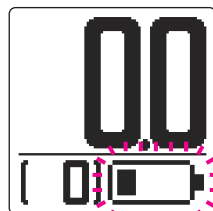
電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため１秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動します。作動中は「ブレーカー作動中」の文字が点滅します。

作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに５分以上休ませてください。（この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。）「ピピッ」のアラームが鳴り「ブレーカー作動中」の表示が消えればブレーカーは復帰です。

ご注意：

・ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
・ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～３分程度の時間がかかります。

●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V（リチウムイオンバッテリーは13.5V）以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字が点滅します。
絵文字が点滅しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。

●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」の項目を参照していただき、修理に出してください。

＊下記が表示された際には糸を出したり巻いたりしないでください。
　糸巻学習が不正確になります。

●電圧が高すぎる場合

DC28V以上の電圧がかかった場合に表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかお確かめください。

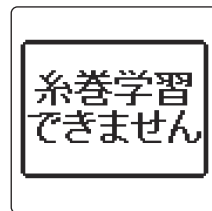
●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

次ページにつづく

仕様

最大巻上力	最大ドラグ力	最大巻上速度	実用巻上速度			実用巻上持久力
47kg	11.5kg	185m/分	1kg（負荷）	2kg（負荷）	3kg（負荷）	6.2kg
461N	112.7N		141m/分	134m/分	125m/分	60.8N

※参考値

シマノの船リールで表示している最大ドラグ力は、人間が片手で締め込める力を35kg・cmとし、そのときのドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば2000番のリールならPE5号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。
その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は12.5V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

長時間耐久維持できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

品番	商品コード 製品コード	ギア比	自重(g)	糸巻量(号-m)PE*1	糸巻量(号-m)PE[パワープロデプスハンター船]	糸巻量(号-m)フロロ	最大巻上長(cm/ハンドル1回転)	スプール寸法(径mm/幅mm)	ハンドル長(mm)	ベアリング数(S A-RB/BB*2/ローラー)
ForceMaster 2000 MK	02906 5RG382000	5.1	655	3-500 4-400　5-300	3-520 4-360　5-310	5-320 6-250	70	44/38	60	10/2/1

＊1　8本編みのPEラインを使用した時の糸巻量です。

＊2　通常ベアリング2個はモーター内部に内蔵。

●標準付属品

ケーブル1本（Type-B）、取扱説明書、分解図、糸通しピン、リール袋、保証書、下巻きゲージ（リール小箱に印刷されていますので、切り取ってご使用ください。）、脚調整シート2枚

※本製品に付属しているケーブルはType-Bです。

●電源（直流）

DC12V（リチウムイオンバッテリー可）

●夢屋パーツ取り付け可能

ハンドル	ハンドルノブ
BH-2　BH-3　BH-4　BH-5　BH-6　専用品	B

●ご注意

PE3号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの（＋）（－）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.18～19
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.20～35
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.20～35
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.20～35
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、2m～6m未満の範囲です。 0m～1m未満のセットは安全のため2mに設定しています。	P.40～41 P.44
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P.18～19 P.16

次ページにつづく

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクター部分がサビていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.18～19
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターにErの文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P.71
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいます様お願いいたします。
（1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。）
以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内／サービスネット

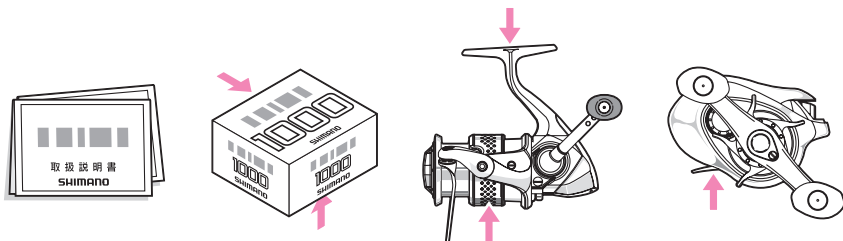
リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

●修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。
また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。
修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。
（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお薦めします。）

例／製品名：ForceMaster 2000 MK　　商品コード：02906
　　製品コード：5RG382000　　部品番号：2　　部品名：ハンドル

●弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後６年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後６年以内でも供給できない可能性がございます。

●**商品コード / 製品コードの位置**
取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上５ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町2-17-10　TEL. (048) 772-6662
※仙台営業所管轄のお客様のご連絡は埼玉営業所で承ります。

株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043　埼玉県上尾市西宮下3-194-1　TEL. (048) 772-6662

株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013　東京都大田区大森南1-17-17　TEL. (03) 3744-5656

株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012　名古屋市中川区尾頭橋2-6-21　TEL. (052) 331-8666

株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577　大阪府堺市堺区老松町3-77　TEL. (072) 223-3920

株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941　岡山市南区青江6-6-18　TEL. (086) 264-6100

株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014　香川県観音寺市流岡町1496-1　TEL. (0875) 23-2220

株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048　佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6　TEL. (0942) 83-1515

株式会社シマノ 釣具事業部
本　社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ
フリーダイヤル　0120-861130（ハローイイサオ）
フリーダイヤルをご利用できない方は **072-243-8538（有料）** をご利用下さい。
受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土·日·祝日除く）
■シマノホームページ アドレスは **http://www.shimano.com** です。
新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。また、カタログのお申し込みも受け付けています。

Printed in Japan　042t

SHIMANO

●糸通しピン

(130718)